

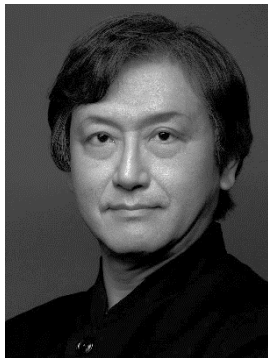
Contents

オペラ芸術監督 大野和士	2
2020/2021シーズン オペラ ラインアップ	4
夏の夜の夢	5
アルマゲドンの夢	11
こうもり	17
トスカ	23
フィガロの結婚	27
楽劇「ニーベルングの指環」第1日	
ワルキューレ	32
夜鳴きうぐいす/イオランタ	37
ルチア	43
ドン・カルロ	47
カルメン	52
令和2年度公演	56
2020新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～ 子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ	
Super Angels スーパーエンジェル	57
2020新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～ 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 (新国立劇場公演)	
夕鶴	64
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 (ロームシアター京都公演)	
魔笛	66
2020新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～ 新国立劇場 地域招聘オペラ公演 びわ湖ホール	
竹取物語	68
公演一覧(1997.10～2020.6)	70

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性があります。
何卒ご承知おきください。

2020/2021 シーズン オペラ

オペラ芸術監督 大野和士



新国立劇場 2020/2021 シーズンのラインアップを皆様にご紹介できますことを大変な喜びに感じております。

本年も4本の新制作、6本のレパートリー作品を並べ皆様をお待ちしております。本年は私の芸術監督3シーズン目ということで、1年目に行ったダブルビルと日本人作曲家委嘱シリーズが再び帰って参ります。

ダブルビルは、チャイコフスキーの『イオランタ』とストラヴィンスキー『夜鳴きうぐいす』。『イオランタ』はチャイコフスキー最後のオペラで、デンマークのロマン派作家ヘルツの戯曲をチャイコフスキーの弟、モデストがオペラ台本に脚色し、兄に献上して誕生した作品。チャイコフスキーの音楽はおとぎ話のように美しく、彼の作曲家として、また人間としての純真さ、優美さ、繊細さが見事に結実した傑作です。ストラヴィンスキーの『夜鳴きうぐいす』はアンデルセン童話が原作であり、人間が生きる道をさ迷う中、うぐいすの可憐なコロラトゥーラが胸に染み渡ります。演出はこのプロダクションを念頭に、昨年新国立劇場オペラ研修所で『イオランタ』を若手に丁寧に指導してくれたコッコスが務めます。

日本人作曲家委嘱シリーズ第2弾は、俊英、藤倉大氏による彼自身3番目となる新作オペラ。彼が選んだ題材は、英国人のSF小説の父、H. G. ウェルズの小説『アルマゲドン（世界最終戦争）の夢』。ウェルズは未来を予言するような作品を次々と書きましたが、この『アルマゲドンの夢』は1901年に書かれながら、第一次世界大戦の大量破壊兵器や、第二次世界大戦に至るファシズムの到来、原子力による暴力までも不気味に予測した驚くべき作品。藤倉はオペラ化に当たって、「通勤電車の中の会話として語られるこのドラマを、音楽によって」「夢の中あるいは覚醒状態の連続体のようにした」「オペラ特有の合唱という存在には、乗客や血に飢えた軍隊を想起させる役を与えた」と言っています。

シカゴ響やBBCプロムスなど世界的な楽団やフェスティバルからの委嘱が絶えない、また日本では子供から大人まで参加できる名物フェスティバル「ボンクリ・フェス」などで今日の音楽界を牽引するエネルギーな藤倉大の新作オペラ、世界初演は必見です。

演出は、2018年ザルツブルクで『魔笛』を手がけたリディア・シュタイアー。世界の目が彼女に注がれている今、新国立劇場で新演出を迎えられることは大変幸運なことです。

新制作、他の2演目は、ビゼーの『カルメン』とブリテンの『夏の夜の夢』です。

『カルメン』は、2018/2019 シーズン『トゥーランドット』で話題を呼んだオリエ演出。彼の国スペイン題材のオペラで、白熱の情熱の世界を、満を持してご覧いただきたいと思います。カルメン役にはフランスの名花ドゥストラック、ドン・ホセはこの数年で瞬く間に大きなキャリアを築いたアガザニアン、エスカミーリョには、近年パリ・オペラ座で大活躍のドゥハメルが登場します。この『カルメン』と『アルマゲドンの夢』は私が指揮を務めます。

『夏の夜の夢』は、シェイクスピアとブリテンというイギリスの二人の天才の才能が見事に結びついた作品。妖精の気まぐれといたずらで、若い恋人4人と職人6人組がてんでこ舞いする原作に忠実に、ブリテンがそれぞれの世界を色とりどりの美しい音楽で紡ぎあげた極上のコメディ。モネ劇場のマクヴィカー演出による、舞台一面に森をめぐるような夢幻の世界を、新国立劇場のプロダクションとして改めて皆様にご披露いたします。指揮のブラビンスを筆頭に、出演者の多いこの作品にふさわしい歌手たちが集まりますが、中でもオーベロン役の藤木大地は、大騒ぎの種を蒔く張本人としてドラマを牽引してくれるでしょう。

レパートリー作品も充実の指揮者陣、歌手陣で皆様に楽しんでいただきます。

『トスカ』のタイトルロールにはプッチーニのオペラで国際的に活躍が続くイゾットン、カヴァラドッシには日本でもおなじみのスピントテノール、メーリ、スカルピアには、奥深く感情のこもった声で魅了するソラーリ、指揮者にはヴェルディやプッチーニの名演で名高いカッレガーリを配し、緊迫したドラマが展開することでしょう。

『フィガロの結婚』は、ウィーン国立歌劇場の常連指揮者、ピドの新国立劇場初登場。キャストには、スザンナに臼木あい、ケルビーノに脇園彩と日本人のスターが並び、海外からの実力派たちと丁々発止の、ドラマティックでワクワクするアンサンブルを聴かせてくれることと思います。

『こうもり』の指揮は、アメリカ人としては珍しく、イタリアのメジャー劇場でオペラ指揮者としてキャリアを積み国際的に羽ばたいたフランクリン。得意のオペレッタで香しい響きをもたらすことでしょう。主役二人には名歌手にして名優を招聘。アイゼンシュタインは、パイロイトでも活躍、ドイツリートの世界でも名高いバリトン、シュムッツハルト。舞踏会で情熱的な仮面の女性に変身するロザリンデは、元帥夫人やジークリンデを歌うかと思えば、オペレッタも得意に歌い演じるケスラー。皆様をウィーンの少しばかりアンニュイで、底抜けに洒脱な世界にお誘いし、大いに湧いていただきますよう。

『ワルキューレ』には飯守泰次郎マエストロを再び指揮台にお迎えして、極め尽くしたワーグナーの世界をお聴きいただきたいと思います。マエストロの深い解釈を表現するために、もう今更説明の必要もない、テオリン、キルヒ、シリンス、そして極め付けに我らが藤村実穂子と、最高の歌手の方々が集まることになりました。

『ルチア』は二人の女性にご注目を。一人は指揮者スペランツァ・スカップッチ。ウィーンを始め世界の大劇場で注目を集め、リエージュのワロニー歌劇場音楽監督としても重責を果たす話題の指揮者。スペランツァという名は、なんと‘希望’という意味なので、彼女が指揮台に上がるのを見るだけで、ゾクゾクしてくることでしょう。タイトルロールはルング。今『ルチア』『アンナ・ボレーナ』『ファウスト』のマルグリート、『椿姫』などを歌ったら、中音域から遙か高音へと彼女ほど音質が変わらず気持ちよく上がっていく歌手には、そうやすやすとはお目にかかれません。彼女の声に、‘希望’の星はどのようにオーケストラを駆り立てていくでしょうか。

『ドン・カルロ』はカリニャーニの指揮。ペルトウージ、ガンチ、マリーナ・コスタ＝ジャクソン、キウリ等の重厚なキャストの一角を占めるのは、ロドリゴ役で全編を締める高田智宏。『紫苑物語』の主役を朗々たる声で歌った若武者が、ヴェルディのオペラで帰ってきます。

オペラパレスの新シーズンで、思わず息を飲む瞬間をいくたびと味わっていただきますよう、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

〈プロフィール〉

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニー国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場カールスルーエ音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは07年6月にミラノ・スカラ座デビュー後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年、リヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで最優秀オペラハウス2017を獲得。同年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では、98年『魔笛』、10・11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮したほか、20年6月には『ニュルンベルクのマイスタージנגー』、8月に『Super Angels スーパーエンジェル』を指揮する予定。

2020/2021 シーズン オペラ ラインアップ
〈新制作4演目／レパートリー6演目 合計10演目46公演〉

2020 年 10 月

新制作

夏の夜の夢

A Midsummer Night's Dream | B. ブリテン
5回公演

2020 年 11 月

新制作

制作委嘱作品・世界初演

アルマゲドンの夢

A Dream of Armageddon | 藤倉 大
4回公演

2020 年 11 月～12 月

こうもり

Die Fledermaus | J. シュトラウスⅡ世
5回公演

2021 年 1 月～2 月

トスカ

Tosca | G. プッチーニ
5回公演

2021 年 2 月

フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro | W. A. モーツァルト
4回公演

2021 年 3 月

楽劇「ニーベルングの指環」第1日

ワルキューレ

"Der Ring des Nibelungen" Erster Tag
Die Walküre | R. ワーグナー
5回公演

2021 年 4 月

新制作

夜鳴きうぐいす／イオランタ

Le Rossignol /Iolanta | I. ストラヴィンスキー/P. チャイコフスキー
4回公演

2021 年 4 月

ルチア

Lucia di Lammermoor | G. ドニゼッティ
4回公演

2021 年 5 月

ドン・カルロ

Don Carlo | G. ヴェルディ
4回公演

2021 年 7 月

新制作

カルメン

Carmen | G. ビゼー
6回公演

夏の夜の夢

2020 年 10/4～12

<新制作>

New Production

A Midsummer Night's Dream

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(英語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2020年6/7(日)～6/16(火)

●一般発売日: 2020 年 6/20(土)

初演: 1960年6月11日/ジュブリー・ホール(オールドバラ)

作曲: ベンジャミン・ブリテン

原作: ウィリアム・シェイクスピア

台本: ベンジャミン・ブリテン、ピーター・ピアーズ

プロダクションについて

20世紀のオペラから、イギリスの作曲家ブリテンの『夏の夜の夢』を新制作します。妖精の気まぐれで起こる大騒動を描いたシェイクスピアの傑作喜劇をもとに、原作の約半分のテキストで構成されたオペラ。動機や和声によるドラマ進行に長けたブリテンならではの手法で、妖精、恋人達、職人達の3つの世界が鮮やかに展開します。親しみやすい多彩な音楽が聴衆を魅了し、ボーイ・ソプラノによる妖精たちのアンサンブルや、カウンター・テナーの妖精の王オーベロンは、観客を一気に幻想的な世界へ引き込む存在で、特に印象的です。

マクヴィカー演出のプロダクションは2004年モネ劇場で初演されたもので、『夏の夜の夢』の奔放な男女の機微を現代的なタッチで描く、エッジの効いた演出。王と女王の大人の応酬に、若者たちの恋の鞘当て、職人たちの愉快的な劇中劇、人生の喜びと悲哀が滲む豊饒で美しいテキストと、シェイクスピア演劇のエッセンスがオペラの舞台に凝縮されています。演劇讃歌ともいえる祝祭的な大団円には、劇場中が幸福に包まれることでしょう。

オーベロンには新国立劇場オペラ研修所から羽ばたき、カウンター・テナーとしてウィーン国立歌劇場にもデビューした藤木大地、ティターニアは20世紀や現代作品でも注目されるスウェーデンの歌姫アヴェモ、指揮にはイギリス音楽の権威でイングリッシュ・ナショナル・オペラ音楽監督のマーティン・ブラビンスが登場します。

なお、2020年秋は、オペラ、舞踊(ダンス)、演劇の3部門でシェイクスピアに関連した作品を上演します。



モネ劇場公演より

あらすじ

【第1幕】妖精の王オーベロンとティターニアは小姓をめぐって夫婦げんか中。オーベロンは惚れ薬の力でティターニアを出し抜こうと、パックに薬草を採ってくるよう命じる。その汁を臉に塗れば、目覚めて最初に見た者に恋焦がれるという薬草だ。舞台にはアテネの若者ライサンダーとハーミアが登場。ハーミアはディミートリアスとの結婚を命じられ、駆け落ちしようとしているのだ。ディミートリアスがヘレナに追い回されている光景も目にして、オーベロンは恋人たちをまとめようと思いつき、薬草を使ってディミートリアスをヘレナに惚れさせろとパックに命じる。アテネの職人たちは、シーシアス公の御前で演じる芝居の準備をしている。パックが誤ってライサンダーの目に薬を垂らしたので、目覚めたライサンダーは通りがかりのヘレナに恋してしまう。一方オーベロンはティターニアの臉に薬を垂らす。

【第2幕】職人たちは芝居の稽古中。ボトムが稽古の輪を離れると、パックがボトムの頭をロバの頭に変えてしまう。職人たちは怪物に驚き、逃げ回る。傍らで目を覚ましたティターニアは、ロバ頭のボトムに夢中になる。ライサンダーに捨てられたハーミア、恋敵のライサンダーとディミートリアス、突如2人から求愛され怒るヘレナ、4人の若者たちはけんかになり、パックは事態を収拾しようと、4人を眠りにつかせる。

【第3幕】朝、目覚めた若者たちは、ライサンダーとハーミア、ディミートリアスとヘレナという2組のカップルに落ち着き、シーシアス公に結婚の許しを請う。ボトムも元の姿に戻り、職人たちはシーシアスとヒポリタの結婚式で「ピラマスとシスビー」の芝居を上演する。オーベロンとティターニアも恋人たちを祝福する。

ベンジャミン・ブリテン
夏の夜の夢

Benjamin BRITTEN / A Midsummer Night's Dream

全3幕〈英語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	マーティン・ブラビンス
Conductor	Martyn BRABBINS
演出	デイヴィッド・マクヴィカー
Production	David McVICAR
美術・衣裳	レイ・スミス
Set and Costume Design	Rae SMITH
照明	ベン・ピッカースギル
Lighting Design	ポール・コンスタブルによるオリジナルデザインに基づく Ben PICKERSGILL Based on the original designs by Paule CONSTABLE
演出補・ムーヴメント	レア・ハウスマン
Revival Director and Movement	Leah HAUSMAN
美術・衣裳補	ウィリアム・フリッカー
Associate Set and Costume Design	William FRICKER
オーベロン	藤木大地
Oberon	FUJIKI Daichi
ティターニア	シェシュティン・アヴェモ
Tytania	Kerstin AVEMO
パック	デイヴィッド・グリーヴス
Puck	David GREEVES
シーシアス	大塚博章
Theseus	OTSUKA Hiroaki
ヒポリタ	小林由佳
Hyppolita	KOBAYASHI Yuka
ライサンダー	ミケーレ・アンジェリーニ
Lysander	Michele ANGELINI
ディミートリアス	ダニエル・オクリッチ
Demetrius	Daniel OKULITCH
ハーミア	タマラ・ゲーラ
Hermia	Tamara GURA
ヘレナ	ヴァルダ・ウィルソン
Helena	Valda WILSON
ボトム	ヘンリー・ワディントン
Bottom	Henry WADDINGTON
クインス	妻屋秀和
Quince	TSUMAYA Hidekazu
フルート	村上公太
Flute	MURAKAMI Kota

スナッグ	志村文彦
Snug	SHIMURA Fumihiko
スナウト	青地英幸
Snout	AOCHI Hideyuki
スターヴリング	吉川健一
Starveling	YOSHIKAWA Kenichi

ほか

管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

Original Production of La Monnaie – De Munt in Brussels

2020 年	10 月	4 日(日)14:00	6 日(火)14:00
		8 日(木)18:30	10 日(土)14:00
		12 日(月)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

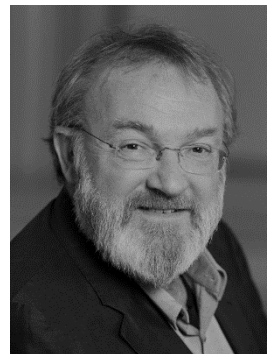
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: マーティン・ブラビンス

Conductor: Martyn BRABBINS

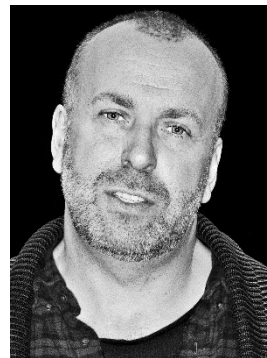
2016年よりイングリッシュ・ナショナル・オペラ音楽監督。これまでにミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、リヨン歌劇場、フランクフルト歌劇場、フランダース・オペラなどで指揮。フィルハーモニア管弦楽団、BBC交響楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、東京都交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団といった世界のトップオーケストラを定期的に指揮している。サンクトペテルブルクでイリヤ・ムーシンのもとで学び、1988年にリーズ指揮者コンクールに優勝、94年から2005年までBBCスコティッシュ交響楽団アソシエイト・プリンシパル・コンダクター、09年から15年までアントワープ交響楽団首席客演指揮者、12年から16年まで名古屋フィルハーモニー交響楽団常任指揮者を務める。現代曲の世界初演も数多く、CD録音は120枚を超える。新国立劇場初登場。



演出: デイヴィッド・マクヴィカー

Production: David McVICAR

スコットランド出身。英国王立スコットランド音楽演劇アカデミーで学ぶ。英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、カナディアン・オペラ・カンパニー、シカゴ・リリック・オペラ、トリノ王立歌劇場、リセウ大劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、モネ劇場、スコティッシュ・オペラ、ストラスブール・ラン歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などで数多くのオペラを演出。2011年、ラン歌劇場『ニーベルングの指環』演出により音楽批評家協会グランプリ受賞。グラインドボーン音楽祭『ジュリオ・チェーザレ』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『ルクレティアの凌辱』『ねじの回転』でサウスバンク・ショー・アワード受賞。『アドリアーナ・ルクヴルール』『ねじの回転』『アルチーナ』『ルクレティアの凌辱』『リゴレット』『皇帝ティトの慈悲』はすべてオリヴィエ賞にノミネートされた。12年にはエリザベス二世の治世60周年ダイヤモンド・ジュビリー記念において、オペラへの功績に対し騎士号を叙勲、フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを授与。新国立劇場では2010年に『トリスタンとイゾルデ』を演出した。



オーベロン: 藤木大地

Oberon: FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーンに拠点を置き、ウィーン国立音楽大学大学院で文化経営学を専攻。2011年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年5月、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパ・デビュー。翌月同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演、国際的に高い評価を得る。17年4月にライマン『メデア』ヘロルド役でウィーン国立歌劇場にデビュー。東洋人のカウンター・テナーとして史上初の快挙で、現地の聴衆から熱狂的に迎えられた。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルで活躍しており、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」主題歌も担当。18年10月にはメジャー・デビュー・アルバム「愛のよるこびは」をリリース。パロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活躍している。新国立劇場へは『フィガロの結婚』ドン・クルツィオなどへ出演。本年4月に『ジュリオ・チェーザレ』でカウンター・テナーとしてデビュー予定、また8月には『Super Angels スーパーエンジェル』にも出演予定。

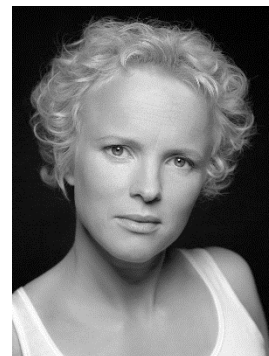


主要キャスト・スタッフ プロフィール

ティターニア: シェシュティン・アヴェモ

Tytania : Kerstin AVE MO

スウェーデン出身。イエーテボリ歌劇場の『ルル』『ルチア』『オルフェオとエウリディーチェ』のタイトルロール、『椿姫』ヴィオレッタなどの出演をはじめ、スウェーデン王立歌劇場、デンマーク王立歌劇場、モネ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、フランクフルト歌劇場、チューリヒ歌劇場、ジュネーヴ大劇場などで『後宮からの逃走』ブロンデ、『仮面舞踏会』オスカル、『リゴレット』ジルダ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ばらの騎士』ゾフィーなどに出演。現代作品にも数多く取り組み、細川俊夫『班女』『二人静ー海から来た少女ー』初演にも出演している。最近では、ブレゲンツ音楽祭『ホフマン物語』オランピア、テアトロ・レアル、モネ劇場、ウィーン祝祭週間で『コジ・ファン・トゥッテ』デスビーナ、モネ劇場、ポーランド国立歌劇場で『パウダー・ハー・フェイス』（アデス作曲）メイド、ストックホルム王立歌劇場で『ペレアスとメリザンド』メリザンド、『魔笛』夜の女王、デンマーク王立歌劇場『皆殺しの天使』レティシア、スウェーデン王立歌劇場『Tristessa』世界初演、イエーテボリ歌劇場『ジュリエッタ』（マルティヌー作曲）タイトルロール、『人間の声』、ジュネーヴ大劇場『仮面舞踏会』オスカルに出演。新国立劇場初登場。



ライサンダー: ミケーレ・アンジェリーニ

Lysander : Michele ANGELINI

2006年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』リーベンスコフ伯爵でヨーロッパ・デビュー。レッジャーロ・テノールの旗手としてロッシーニ、ベッリーニ、ドニゼッティ、グルック、ヘンデル、モーツァルトなどで国際的に活躍。最近の出演に英国ロイヤルオペラ『オルフェオとエウリディーチェ』、メトロポリタン歌劇場『ギヨーム・テル』リュオデ、バイエルン州立歌劇場『イタリアのトルコ人』『セミラーミデ』、英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、スウェーデン王立歌劇場、ニュー・オーリンズ・オペラ、ピッツバーク・オペラなどで『セビリアの理髪師』、フィレンツェ歌劇場『ランスへの旅』、ボローニャ歌劇場、アトランタ・オペラ『アルジェのイタリア女』、英国ロイヤルオペラ、スウェーデン王立歌劇場、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル『ドン・ジョヴァンニ』、ローマ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』などがある。18/19シーズンに『タンクレディ』でバーリ・ペトルツェリ歌劇場、『ランスへの旅』でボリショイ劇場、『セビリアの理髪師』でベルリン州立歌劇場、『チェネレントラ』でローマ歌劇場などへデビュー。19/20シーズンにはスウェーデン王立歌劇場とシアトル・オペラへ『チェネレントラ』で、『ランスへの旅』でケルン歌劇場へ、『アンナ・ボレーナ』でリトアニア国立歌劇場へデビュー予定。新国立劇場初登場。



ディミートリアス: ダニエル・オクリッチ

Demetrius : Daniel OKULITCH

カナダ出身。バズ・ラーマン演出『ラ・ボエーム』初演のショナールで注目を集める。モーツァルト、特に『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵とフィガロでニューヨーク・シティ・オペラ、プエノス・アイレス・コロネ劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンタフェ・オペラ、パームビーチ・オペラ、バンクーバー・オペラなどに出演を重ねる。現代作品も得意で、マドリッド・テアトロ・レアルで『ブローックバック・マウンテン』（ウォリネン作曲）イニス、シャトレ座、ロサンゼルス・オペラ『ザ・フライ』（ワード・ショア作曲）セス・ブランドル、セントルイス・オペラ『ゴールデン・チケット』（アッシュ作曲）ウィリーなどにも出演。最近では、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『マーニー』（ミューリー作曲）世界初演のマーク、ニューヨーク・シティ・オペラ『ブローックバック・マウンテン』イニス、モントリオール・オペラとフォートワース・オペラで『JFK』（リトル作曲）リンドン・ジョンソン、サンタフェ・オペラ『ドクター・アトミック』グローブス将軍、マニトバ・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、カルガリー・オペラ『エベレスト』ベックなどに出演した。19/20シーズンはミシガン・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、モントリオール・オペラ『リトゥン・オン・スキン』に出演。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ハーミア:タマラ・グーラ

Hermia : Tamara GURA

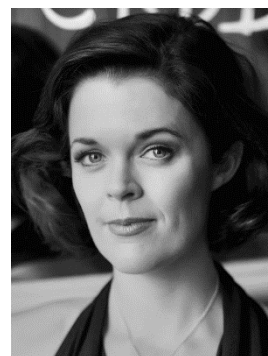
アメリカ出身。チューリヒ歌劇場オペラスタジオを経て、ハンブルク州立歌劇場で『ジュリオ・チェーザレ』セスト、『イタリアのトルコ人』ザイダ、『スペードの女王』ポリーナ、『ボッペアの戴冠』アモレなどに、バーデン州立歌劇場専属歌手として『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『セビリアの理髪師』ロジーナなどに出演。カールスルーエ・ヘンデル音楽祭『ラダミスト』タイトルロールなどバロック作品で評価され、バロック、モーツァルト、ベルカントから現代作品と広いレパートリーを持つ。ザルツブルク州立劇場、ザクセン州立歌劇場、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ローマ歌劇場、エッセン・アールト劇場などで『チェネレントラ』と『アリオダンテ』のタイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ホフマン物語』ニクラウス、『夏の夜の夢』ハーミア、『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ、『カルメン』タイトルロールなどに出演。最近の出演に、ヘッセン州立劇場『ノルマ』アダルジーザ、ベルン州立劇場『アルチーナ』ブラダマンテ、ハイデンハイム・フェスティバル『スペードの女王』ポリーナなどがある。新国立劇場初登場。



ヘレナ:ヴァルダ・ウィルソン

Helena : Valda WILSON

オーストラリア出身。シドニー音楽院で学び、数々の賞や奨学金を獲得してロンドンのオペラスタジオで研鑽を積む。ザクセン州立歌劇場若手専属歌手のメンバーとなった後、ザルツブルク音楽祭、ヴェルビエ音楽祭の若手歌手プログラムにも参加。オルデンブルク歌劇場専属歌手を経て、17/18シーズンよりザールブリュッケン歌劇場専属歌手。これまでに、ザルツブルク音楽祭『子供のための魔笛』パミーナ、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ルサルカ』、ヴェルビエ音楽祭『セビリアの理髪師』ロジーナ、ザクセン州立歌劇場『魔笛』パミーナとパパゲーナ、ザルツブルク音楽祭『カルミナ・ブラーナ』、オルデンブルク歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリ、『夏の夜の夢』ヘレナなどに出演している。ザールブリュッケン歌劇場では『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ソラリス』ハリー、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『椿姫』ヴィオレッタ、『ファウスト』マルグリート、『ばらの騎士』元帥夫人、『フィガロの結婚』伯爵夫人などに出演している。今シーズンは、同劇場『ファウスト』マルグリート、『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリ、『ドン・カルロ』エリザベッタに出演予定。新国立劇場初登場。



ボトム:ヘンリー・ワディングトン

Bottom: Henry WADDINGTON

イギリス・ケント生まれ。王立ノーザン音楽大学で学び、『夏の夜の夢』ボトムでデビュー。グラインドボーン音楽祭で『夏の夜の夢』クインス、『フィデリオ』ドン・フェルナンドなどに、ツアー公演の『ラ・ボエーム』コッリーネ、『チェネレントラ』ドン・マニフィコ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソなどに出演を重ねる。英国ロイヤルオペラ、オペラ・ノース、イングリッシュ・ナショナル・オペラなどイギリスのあらゆるオペラカンパニーに、『フィガロの結婚』バルトロ、『セビリアの理髪師』バジリオ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『オテロ』ロドヴィーコなどで定期的に出演。また『夏の夜の夢』でリセウ大劇場とマドリード・テアトロ・レアルに、『ビリー・バッド』でオランダ国立オペラに出演したほか、モネ劇場、シュトゥットガルト州立劇場などにも出演。最近の主な出演に、ベルリン州立歌劇場『ヤーコプ・レンツ』牧師オーベルリン、オランダ国立オペラ『イエヌーファ』粉屋の親方、ガーシントン・オペラ『ファルスタッフ』タイトルロール、ノルウェー国立オペラ『ばらの騎士』オックス男爵、今後の予定にウェルシュ・ナショナル・オペラ『フィガロの結婚』バルトロ、ガーシントン・オペラ『一日だけの王様』ケルバール男爵がある。新国立劇場初登場。



2020 年 11/15～23
＜新制作 創作委嘱作品・世界初演＞
New Production
Commissioned Work,
World Premiere

アルマゲドンの夢

A Dream of Armageddon

●会員先行販売期間：2020年7/5(日)～7/14(火)

●一般発売日：2020 年 7/18(土)

オペラパレス | 4回公演 | 全 9 場(英語上演/日本語及び英語字幕付)

作曲：藤倉大
原作：H.G.ウェルズ
台本：ハリー・ロス

プロダクションについて

『紫苑物語』に続く日本人作曲家への創作委嘱シリーズの第2弾。ロンドンを拠点に世界中のオーケストラや歌劇場から委嘱を受けて旺盛な作曲活動を展開し、音楽の新時代を切り拓いている作曲家・藤倉大の新作オペラを上演します。藤倉がオペラを手がけるのは3作目ながら、日本では『ソラリス』が演奏会形式で上演されたのみで、内外から注目を集めることは必至です。

藤倉が選んだ題材は、20世紀初頭に書かれたH.G.ウェルズのSF短編『アルマゲドンの夢』。藤倉と長年共同作業をしているハリー・ロスが台本(英語)を手がけ、藤倉らしい大胆な発想でオペラ化、時空を自在に行き来しながら、忍び寄る全体主義、そして科学技術の発展がもたらす大量殺戮への不安を鋭くも描いた原作を脚色し、現代に生きる我々のそばにある脅威をスリリングに描き出します。

演出は、2018年ザルツブルク音楽祭『魔笛』で世界的话题をさらったアメリカの女性演出家リディア・シュタイアー。指揮は大野和士芸術監督自らがあたります。国内外のメディアから世界に通用する普遍的な力を絶賛された『紫苑物語』に続き、新国立劇場から、日本人作曲家のオペラを世界へ向けて発信します。世界的話題作の誕生は、同時代に生きる全てのオペラファン、音楽ファン、演劇ファン必見です。

あらすじ

大都市へ向かう通勤電車の中。若い税理士フォートナムは見知らぬ男クーパーに、その本は夢についての本かと問われる。訝しむフォートナム。クーパーは、夢と現実が入り混じることはいないか、自分は夢の中で殺された、別の時間に生きていたのだと畳みかける。

クーパーは美しく聡明な妻ベラと新婚生活を送っていた。ダンスホールへ現れたインスペクターの扇動で、若者たちは戦争への恐怖を煽られ、ジョンソン率いる一派にあっけなく取り込まれてしまう。敢然と立ち向かおうとするベラ。なだめるクーパーを、ベラは自由を求め戦おうと必死で説得する。やがて巨大な飛行機や戦艦が近づき、興奮が渦巻く中、爆撃が始まる。ベラが撃たれ、クーパーの腕の中で息絶える。

作曲家からのメッセージ

『アルマゲドン』は夢の物語であり、現実とは思えない世界を描いていますが、今日の社会にも強く結びついています。鏡のように、いまを映し出しているのです。

大野和士さんからの突然のメールで、僕の三作目のオペラ、それも合唱と管弦楽を伴うオペラの作曲を依頼された際、大野さんは現代に関連した物語を要望しました。

そこで僕は、H.G. ウェルズのこの短編がぴったりだと思ったのです。『アルマゲドン』は2度の世界大戦よりも前に書かれた物語ではありますが、見知らぬ他人同士が電車内で交わす会話を通じて、戦時下における全体主義的な世界が描かれています。

僕はこの小説にすぐ夢中になりました。台本作家と僕は、通勤電車の場面で幕を開けるオペラを作りたいと、20年以上も思っていたのです！ それから結局作らないままになっていたのですが、それは20歳の僕たちにはそのような作品委嘱の機会に恵まれなかったというだけでなく、電車の場面からどう物語を展開させていくか、うまく決められなかったからでもあります。

ですがいま、オファーをいただいて、僕たちの物語は、電車の会話から近未来を予言する奇妙な夢の物語へと発展していったのです。

今回のプロジェクトで一緒に取り組むのは、台本作家のハリー・ロスと演出家のリディア・シュタイアーです。ハリーとは20年以上、多くの作品を作ってきた間柄です。リディアとはここ数年、共同で創作できるプロジェクトはないか探っていました。彼女がもつヴィジョンであれば、僕の音楽を躍動させることができると感じていたからです。この作品では、通勤電車内のコーラスが、血なまぐさい軍隊のコーラスへと変化します。そのコーラスは、僕たち全員の未来を予感させるものでもあります…

このオペラではどの場面でも、夢のような情景が浮かんで消えていきます。何が事実で、何が想像なのか、判然としなくなるのです。

未来的な動く廊下のシーンや、ダンスホールでの、H.G.ウェルズによれば「言葉で説明できないような」未来のダンス音楽も、あります。

この未来の夢の世界には個性あふれる人物たちが登場し、彼らの感情や政治論が、叙情的なストーリーのなかで歌い上げられます。

この作品はオペラであるべきでした。

この作品は、夢であるべきでした。その夢から、目覚めることができればと願っています。

藤倉 大

演出家からのメッセージ

巨大な不正に直面した時、私たちはいかに行動すべきなのでしょう？ 政治が激しく揺れ動いているときに、中立を保つのは可能でしょうか？ 公共の場で交わされる言論が、全体主義的な空気へ流れているときに、自分ひとりの殻に閉じこもり、何もしないでいるべきなのでしょう？ こうした疑問は、フェイク・ニュースが溢れ、政治的な結びつきが希薄になり、混沌に巻き込まれるのが必然に思える現在の社会では、容易に思い浮かぶでしょう。

またこのような疑問は、1901年に出版されたH.G. ウェルズの短編を元にした私たちのオペラ『アルマゲドン』のまさしく中核をなしているのです。『アルマゲドン』が私たちの時代に重なる側面を考えると、不安になり、驚くほど考えさせられます

この小説は夢に蝕まれる男の経験を辿っています。彼はいわば、ことわざで言うところの「茹でガエル」です。軍事的な独裁政権が絶対的な権力を握ろうとしている、ディストピア的な夢の世界。その夢の世界での語り手は、かつて権力を握っていた政治家であり、危機が迫っているのに何もしないという道を選ぶ。その結果、その語り手の分身は、愛するものをすべて失い、自らの命すらもなくしてしまうのです。

私たちが政治の領域で何もしないと、権力に加担することになってしまう。その様相を社会全体で検証するよう、『アルマゲドン』は要求していますが、藤倉大の全く新しい解釈によって、そのテーマが鮮明になりました。リブレット作者のハリー・ロスは、社会的に機能しなくなっている私たちの時代の言葉を劇中で引用して、『アルマゲドン』は私たちの現実とかけ離れていないのだということを明確にしています。

今回のプロダクションは、バーゼル歌劇場で上演されたシュトックハウゼンの「光」から『木曜日』のチームが制作します。このプロダクションは、オペラ専門誌 Opernwelt が選ぶ2016年の「プロダクション・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。斬新な映像技術と大胆な舞台美術を用いつつ、現実が揺れ動く空間を生み出し、私たち自身と、私たちの内側に潜む暗い側面が、絶え間ない劇的緊張のうちに映し出されるでしょう。

リディア・シュタイアー

藤倉 大

アルマゲドンの夢

FUJIKURA Dai / A Dream of Armageddon

全9場〈英語上演／日本語及び英語字幕付〉

原作	H.G. ウェルズ
Original by	H.G. WELLS
台本	ハリー・ロス
Libretto by	Harry ROSS
作曲	藤倉 大
Composed by	FUJIKURA Dai
指揮	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出	リディア・シュタイアー
Production	Lydia STEIER
美術	バルバラ・エーネス
Set Design	Barbara EHNES
衣裳	ウルズラ・クドルナ
Costume Design	Ursula KUDRNA
照明	オラフ・フレーゼ
Lighting Design	Olaf FREESE
映像	クリストファー・コンデク
Video	Christopher KONDEK
ドラマツルク	マウリス・レンハルト
Dramaturg	Maurice LENHARD
クーパー・ヒードン	ピーター・タンジツ
Cooper Hedon	Peter TANTSITS
フォートナム・ロスコー/ジョンソン・イーヴ・シャム	セス・カリコ
Fortnum Roscoe / Johnson Evesham	Seth CARICO
ベラ・ロツジア	ジェシカ・アゾーディ
Bella Loggia	Jessica ASZODI
インスペクター	加納悦子
The Inspector	KANOH Etsuko
歌手／裏切り者	望月哲也
The Singer / The Cynic	MOCHIZUKI Tetsuya
ほか	
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2020 年	11 月 15 日(日) 14:00	18 日(水) 19:00
	21 日(土) 14:00	23 日(月・祝) 14:00

【チケット料金】 S:22,000円 ・ A:16,500円 ・ B:11,000円 ・ C:6,600円 ・ D:3,300円

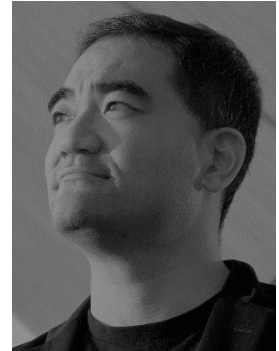
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

作曲: 藤倉 大

Composed by: FUJIKURA Dai

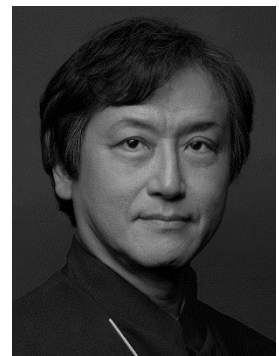
1977年大阪に生まれ15歳で渡英。数々の作曲賞を受賞。国際的な共同委嘱も多数。オペラ作品の国際的評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による自身初のオペラ『ソラリス』をシャンゼリゼ劇場にて世界初演、18年にはアウグスブルク劇場で新演出上演された。また18年2作目のオペラ『黄金虫』を世界初演。14年に名古屋フィルハーモニー交響楽団の、17年にイル・ド・フランス国立管弦楽団のコンポーザー・イン・レジデンスに就任。17年に革新的な作曲家に贈られるヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞を受賞。また同年から東京芸術劇場で開催している世界中の“新しい音”が集まる音楽祭「ボンクリ・フェス」の芸術監督を務めている。20年は『三味線協奏曲』の日本初演、マルタ・アルゲリッチが演奏する『ピアノ協奏曲第4番Akiko's Piano』世界初演等が控えている。録音はソニーミュージックや主宰するMinabel Recordsから作品集が、楽譜はリコルディ・ミュージンヘンから出版されている。



指揮: 大野和士

Conductor: ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラではミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤英雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年、リヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで最優秀オペラハウスを獲得。同年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では、98年『魔笛』、10-11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮。今後は、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、『Super Angels スーパーエンジェル』、20/21シーズンは『カルメン』も指揮する予定。



演出: リディア・シュタイアー

Production: Lydia STEIER

アメリカのハートフォード出身。オーバリン音楽院で声楽を学んだ後、フルブライト奨学生として渡独。ベルリンのHAU劇場で演出した『The Lesson』、シカゴ、クリーヴランド、ニューヨーク、メキシコで上演した『Eight Songs for a Mad King』（P.M.デイヴィス作曲）によるマルチメディア作品で注目を集め、ピッツバーグ・オペラ『皇帝ティトの慈悲』『Brundibar』、ロサンゼルス・オペラ『ローエングリン』、ブレーメン歌劇場『蝶々夫人』、ワイマール・ドイツ国民劇場『メリー・ウィドウ』を演出。香港、ダブリン、ニューヨークのフェスティバルへも招待される。『トゥーランドット』（ブゾニ作曲）と『道化師』により、ラジオ局ドイチュラントラジオ・クルトゥアにより“今年のディスカバリー”とされ、ボツダムの『イエフタ』がウィーン芸術週間に招待される。「光」から『木曜日』（シュトックハウゼン）は、15/16シーズンOpernwelt誌年間最優秀演出賞に選出。オルデンブルク歌劇場『サウル』、マインツ歌劇場『ペレラ 煙の男』がファウスト賞ノミネート。最近の重要な作品には、ベルリン・コーミッシェ・オーバー『ジュリオ・チェーザレ』、ケルン歌劇場『トゥーランドット』、ザクセン州立歌劇場『トロイ人』、ザルツブルク音楽祭『魔笛』、フランクフルト歌劇場『オイディプス王/イオランタ』、バーゼル歌劇場での『Diodati.Unendlich』（ミヒャエル・ヴェルトミューラー作曲）世界初演、ライン・ドイツ・オペラ『スペードの女王』がある。新国立劇場初登場。

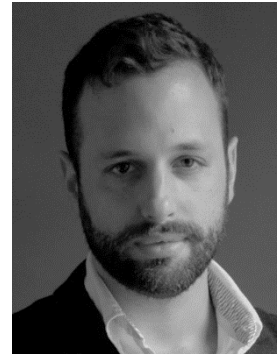


主要キャスト・スタッフ プロフィール

クーパー・ヘドン:ピーター・タンジツツ

Cooper Hedon: Peter TANTSITS

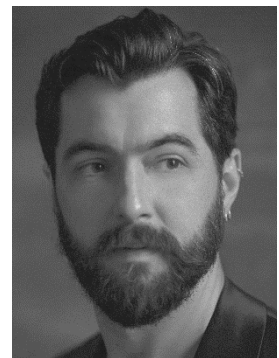
アメリカ出身。ベートーヴェン、ブリテン、ストラヴィンスキー、シェーンベルク、ベルク、ヤナーチェク、リヒャルト・シュトラウス、さらにルイジ・ノーノ、リゲティ、シュトックハウゼン、デュサパン、B.A. ツインマーマンなどをレパートリーにオペラ、コンサートで、バイエルン州立歌劇場、ケルン歌劇場、ミラノ・スカラ座、グライントボーン音楽祭、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ベルリン・フィル、ゲヴァントハウス管弦楽団などで活躍。特に現代曲に重点を置き、最近ではザンクトガレン歌劇場『烙印を押された人々』（シュレーカー作曲）、ケルン歌劇場『軍人たち』などに出演。19年にはフランドース・オペラで『LES BIENVEILLANTES』（パーラ作曲）世界初演に出演し大成功を収めたほか、香港アートフェスティバルで『Madam White Snake』に出演した。今後の予定に、『地下の国のアリス』（バリー作曲）での英国ロイヤルオペラデビューなどがある。新国立劇場初登場。



フォートナム・ロスコー/ジョンソン・イーヴシャム:セス・カリコ

Fortnum Roscoe / Johnson Evesham : Seth CARICO

力強い声とダイナミックなプレゼンス、オペラへの独特の感性で評価されるアメリカの若手バスバリトン。2010年から19年までベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手として、『フィガロの結婚』フィガロ、『ユグノー教徒』サン・ブリ伯爵、『ヴェニスに死す』旅人、『神々の黄昏』グンター、『ビリー・バッド』レッドバーン、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』警官、『パルジファル』クリングゾル、『愛の妙薬』ドゥルカマール、『西部の娘』ソノーラ、『サムソンとデリラ』アビメレクなどに出演、15年『オレスティア』カッサンドラでドイツの「ファウスト賞」最優秀男声歌手にノミネート。18/19シーズンは同劇場で『ヴォツェック』医者、『マクロプロス事件』コレナティ、『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロ、『ドン・キホット』サンチョ・パンサに出演したほか、バーゼル歌劇場『Diodati. Unendolich』（ヴェルトミューラー作曲）世界初演、エッセン・アールト劇場『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロにも出演。19/20シーズンはハノーファー歌劇場『トスカ』スカルピアに出演しているほか、ミネソタ・オペラ『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ベルリン・ドイツ・オペラ『アンチクリスト』（ランゴー作曲）などに出演予定。新国立劇場初登場。



ベラ・ロジャ:ジェシカ・アゾーディ

Bella Loggia : Jessica ASZODI

オーストラリア出身。ジャンルやレーベルを超え、埋もれた作品の復活から新作初演、スタンダードなオペラから多ジャンルのコラボレーションまで幅広く活動。メルボルン響、シドニー響、アデレード響、シドニー・ピンチガッド・オペラ、チロル響、ヴィクトリア・オペラ、シドニー・チェンバー・オペラ、シカゴ響などに、シュトックハウゼンの「光」から『木曜日』のイヴ、サティ『ソクラテス』タイトルロール、モーツァルト『羊飼いの王様』アミンタ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『ジュリオ・チェーザレ』セスト、ウォルトンの『熊』ポポーヴァ、カーター『What Next?』ローズ、『ナクソス島のアリアドネ』エコーなどで出演。ボンのベートーヴェン音楽祭、ビビッド・シドニー、バンディゴ国際音楽祭、メルボルン・フェスティバル、アデレード・フェスティバル、オールドバラ音楽祭、タングルウッド音楽祭などにも出演。オーストラリアのリゾナント・ボディ・フェスティバルの共同ディレクター、バンディゴ国際音楽祭アーティスティック・アソシエイト。2017年にはシカゴのハイ・コンセプト・ラボのアーティスト・イン・レジデンスに参加。今後の予定にシドニー・オペラハウスでリザ・リンがアゾーディのために作曲した『Atlas of the Sky』、ウィーン・フォルクスオーパーのミュージカル『Brigadoon』などがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

インスペクター: 加納悦子

The Inspector: KANO Etsuko

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目に出演。国内ではNHK 交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。13年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」(ALM RECORDS)は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。19/20 シーズンは『セビリアの理髪師』ベルタ、『ジュリオ・チェーザレ』コルネリア、『サロメ』ヘロディアスの小姓に出演予定。二期会会員。



歌手／裏切り者: 望月哲也

The Singer / The Cynic : MOCHIZUKI Tetsuya

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。学部在学中に安宅賞、松田トシ賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。ウィーン国立音楽大学研究課程リート・オラトリオ科にて研鑽を積む。第35回日伊声楽コンクール第3位。第11回奏楽堂日本歌曲コンクール第2位。第70回日本音楽コンクール第2位。これまでに『椿姫』アルフレード、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『フィガロの結婚』バジリオ、『アラベッラ』エレメル伯爵、『トリスタンとイゾルデ』牧童、『サロメ』ナラボート、『さまよえるオランダ人』舵手、『ピーター・グライムズ』ホレーズ・アダムス、『タンホイザー』ヴァルター、『魔笛』タミーノ、『夜叉ヶ池』晃、『ヴォツェック』アンドレス、『アラベッラ』エレメル伯爵、『夕鶴』与ひょう、『マノン・レスコー』エドモンド、『ローエングリン』ブラバントの貴族Ⅰなどに出演。19/20シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィットに出演予定。二期会会員。



こうもり

Die Fledermaus

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2020年8/1(土)～8/18(火)

●一般発売日: 2020 年 8/22(土)

初演: 1874 年 4 月 5 日/アン・デア・ウィーン劇場

作曲: ヨハン・シュトラウスⅡ世

原作: アンリ・メイヤック、ルドウィック・アレヴィ「大晦日の祝宴」ほか

台本: カール・ハフナー、リヒャルト・ジュネー

プロダクションについて

ワルツ王シュトラウスⅡ世が手がけたオペレッタの最高傑作『こうもり』。美しいワルツやポルカ、小粋で品のある風刺やユーモアが観客の心を高揚させ、大団円を迎える頃には歌と踊りと芝居に劇場中が幸福な空気に包まれる、最高の音楽劇です。華と笑いがいっぱい、ウィーン年末年始の風物詩としてもおなじみです。演出はウィーン宮廷歌手の名テノール、ハインツ・ツェドニク。2006年この演出でツェドニクは演出家デビュー、この後、翌年のウィーン・フォルクスオーパー『こうもり』などの演出を手がけました。ウィーン出身で『こうもり』の四役をレパートリーとするツェドニクはウィーン気質を熟知しており、小粋でエレガント、洒脱な仕掛けがたくさん用意された正統的な演出は、『こうもり』の魅力を余すところなく伝えます。

ウィーンを中心に活躍するシュムッツハルトをはじめ『こうもり』を熟知したフレッシュなキャストが勢揃い。フレッシュにワーグナー諸役などで世界的に知られるウィーンが誇る名バス、リドルが登場するのも贅沢な趣向です。



2018 年公演より

あらすじ

【第1幕】アイゼンシュタインは公務執行妨害で刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしにと友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。小間使いアデーレも姉イーダから夜会に誘われ、「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがりますが、その間に昔の恋人のテノール歌手アルフレードと情事を楽しもうと企む。みな表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデがさっそくアルフレードと楽しもうとすると刑務所長フランクが来て、人違いでアルフレードを収監してしまう。

【第2幕】オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせし、お互いフランスの貴族だと自己紹介して、しどろもどろのフランス語で意気投合する。アデーレはロシアの女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするも、口説き道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝6時になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第3幕】刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインが刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き驚くアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ“こうもりの復讐”だったと種明かしし、にぎやかに大団円となる。

ヨハン・シュトラウスⅡ世

こうもり

Johann STRAUSS II / Die Fledermaus

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮	クリストファー・フランクリン
Conductor	Christopher FRANKLIN
演出	ハインツ・ツェドニク
Production	Heinz ZEDNIK
美術・衣裳	オラフ・ツオンベック
Set and Costume Design	Olaf ZOMBECK
振付	マリア・ルイーゼ・ヤスカ
Choreographer	Maria Luise JASKA
照明	立田雄士
Lighting Design	TATSUTA Yuji
ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン	ダニエル・シュムツツハルト
Gabriel von Eisenstein	Daniel SCHMUTZHARD
ロザリンデ	アストリッド・ケスラー
Rosalinde	Astrid KESSLER
フランク	ピョートル・ミチンスキー
Frank	Piotr MICINSKI
オルロフスキー公爵	アイグル・アクメチーナ
Prinz Orlofsky	Aigul AKHMETSHINA
アルフレード	村上公太
Alfred	MURAKAMI Kota
ファルケ博士	ルートヴィヒ・ミッテルハマー
Dr. Falke	Ludwig MITTELHAMMER
アデーレ	マリア・ナザロワ
Adele	Maria NAZAROVA
ブリント博士	大久保光哉
Dr. Blind	OKUBO Mitsuya
フロッシュ	クルト・リドル
Frosch	Kurt RYDL
イーダ	平井香織
Ida	HIRAI Kaori
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
バレエ	東京シティ・バレエ団
Ballet	TOKYO CITY BALLET
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2020 年	11 月 29 日(日)14:00	
	12 月 1 日(火)14:00	3 日(木)19:00
	5 日(土)14:00	6 日(日)14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: クリストファー・フランクリン

Conductor: Christopher FRANKLIN

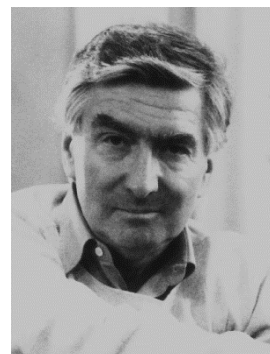
サンフランシスコ生まれ、ベルリン育ち、イタリア在住。トリノ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ミラノ・スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどイタリアの歌劇場や音楽祭で活躍。フアン・ディエゴ・フローレスと長年共演し、ウィーン、ミュンヘン、フランクフルト、パリなどでコンサートを指揮。近年ではミネソタ・オペラで『Doubt』（クオモ作曲）世界初演と『タイス』『椿姫』、トリノ王立歌劇場とカリアリ歌劇場で『ハムレット』『チェネレントラ』、メキシコ・シティで『ヴェニスに死す』、ギリシャ国立歌劇場『オリー伯爵』、ウィルバート・ロッシーニフェスティバルで『結婚手形』『新聞』、ナポリとジェノヴァで『メリー・ウィドウ』、パヴィア、クレモナ、コモで『イタリアのトルコ人』、バルセロナでロッシーニの『オテロ』、トリエステ歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、サンフランシスコ・オペラ『トゥーランドット』、ソフィア王妃芸術宮殿『ねじの回転』『ピーター・グライムズ』、テネリフェ・オペラ『清教徒』『ルチア』などを指揮。19/20シーズンはサンフランシスコ・オペラ『ヘンゼルとグレーテル』を指揮したほか、トリエステ歌劇場『ラ・ボエーム』などを予定。新国立劇場初登場。



演出: ハインツ・ツェドニク

Production: Heinz ZEDNIK

ウィーン生まれ。1964年グラーツ歌劇場と契約を結び、翌年、ウィーン国立歌劇場に移る。80年には宮廷歌手の称号を授与される。94年ウィーン国立歌劇場の名誉会員となり、97年にはフィデリオ・メダルを授与されている。これまでにバイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場など、世界の主要な歌劇場に出演。オペラとオペレッタのレパートリーは100役を超える。特に『こうもり』に関しては4役をレパートリーにしており、この演目に関してのエキスパートとして知られている。新国立劇場には、2004年『スペインの時』トルケマダ、『サロメ』ヘロデ、『ファルスタッフ』医師カイウスに出演。06年本プロダクションで演出家として世界デビューを果たし、09年、11年、15年、18年に再演、今回が5度目の再演となる。



ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン: ダニエル・シュムツツハルト

Gabriel von Eisenstein : Daniel SCHMUTZHARD

オーストリア出身。ウィーン・フォルクスオーパーとフランクフルト歌劇場で専属歌手を務めた。パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ブレッグツ音楽祭で『魔笛』パパゲーノに出演。ほかに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『蝶々夫人』シャープレス、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『タンホイザー』ヴォルフラム、『死の都』フランクなどのレパートリーを持つ。アン・デア・ウィーン劇場に定期的に客演し、パパゲーノ、アイゼンシュタイン、チャイコフスキー『オルレアンの少女』デュノワ、『カプリッチョ』オリヴィエなどに出演。ベルリン州立歌劇場ではヨネライト作曲『メタノイア』に出演した。2017年から19年にはバイロイト音楽祭で『ニュルンベルクのマイスタージンガー』フリッツ・コートナー役に出演。ザルツブルク音楽祭では15年『ウェルテル』アルベールに出演。19/20シーズンはルクセンブルクとパリで『魔弾の射手』オットカール侯爵、ベルリン・コーミッシェ・オーパーでヴァインベルガー作曲『バグパイブ吹きシュヴァンダ』新制作のタイトルロール、フォルクスオーパーでロルツィング作曲『ロシア皇帝と船大工』ピョートル1世、エル・チロル音楽祭『ローエン格林』伝令にも出演予定。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロザリンデ: アストリッド・ケスラー

Rosalinde : Astrid KESSLER

オーストリア出身。ソウルで声楽を学びニューヨーク州立大学で舞台のワークショップに参加、ニュルンベルク音楽大学で声楽を学ぶ。ハノーファーやミュンヘン、カイザースラウテルン、ブレゲンツ、ベルリン、ヴェルツブルクなどでオペラや現代音楽の音楽祭に出演した後、オスナブリュック歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーなどで『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『マリツァ伯爵夫人』など出演。12/13シーズンからマンハイム歌劇場専属歌手として、『魔笛』パミーナ、『ファルスタッフ』アリーチェ、『トゥーランドット』リュウ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『カルメン』ミカエラ、『道化師』ネッダ、『こうもり』ロザリンデ、『ラ・ボエーム』ミミなど多くの役出演し、今シーズンは『ピーター・グライムズ』エレン・オーフォード、『ばらの騎士』元帥夫人、『Der Ring an einem Abend』ジークリンデ、『オテロ』デズデーモナに出演している。ライプツィヒ歌劇場『アラベッサ』タイトルロール、ケムニッツ歌劇場『ワルキューレ』ジークリンデ、ハノーファー歌劇場『こうもり』ロザリンデにも出演予定。新国立劇場初登場。



フランク: ピョートル・ミチンスキー

Frank : Piotr MICINSKI

ポーランド出身のバスバリトン。最近では、リヨン歌劇場でチャイコフスキー『チャロディカ』マムイロフ、『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』詩人、『ヴェネツィア一夜』デラックア、ヴィクトル・ウルマン『アトランティスの皇帝』Der Tod、『ランスへの旅』ドン・プロフォンド、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、『GerMANIA』（ラスカトフ作曲）世界初演時のバスバリトン、サンモリッツ歌劇場とバーゼル歌劇場で『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『新聞』ドン・ボンボーニオ、チューリヒ・トーンハレでハイドン『薬剤師』センブローニオ、オランダ国立オペラ『A Dog's Heart』（ラスカトフ作曲）プロレタリアと探偵に出演している。現代音楽の熟練した演奏家でもあり、フィリップ・グラス『アクナーテン』、マイケル・ナイマン『The Man Who Mistook His Wife for a Hat』にも出演した。新国立劇場初登場。



オルロフスキー公爵: アイグル・アクメチーナ

Prinz Orlofsky : Aigul AKHMETSHINA

ロシア連邦バシコルトスタン共和国のウファ芸術大学で学ぶ。17/18シーズンから英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラムに参加し、『運命の力』プレツィオジッラ、『カルメン』タイトルロールおよびメルセデス、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ソニエトカなどに出演。18/19シーズンを英国ロイヤルオペラのバリー・コスキー演出『カルメン』タイトルロールで締めくくり、続く19/20シーズンはウェクスフォード・オペラ・フェスティバルに『ドン・キホット』ドゥルシネで、ナポリ・サン・カルロ歌劇場に『スぺードの女王』ポリーナでデビューしたほか、マドリッド・テアトロ・レアルに『バサジェリカ』ハンナ、イスラエル・オペラに『エウゲニ・オネーギン』オリガでデビューする予定。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

アルフレード:村上公太

Alfred : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラにて『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『魔笛』タミーノ、『サロメ』ナラポート、『椿姫』アルフレードに出演し、好評を博す。東京二期会では『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロートで活躍。16年日生劇場『後宮からの逃走』ベドリッロも好演した。新国立劇場では『パルジファル』第1の聖杯騎士、『こうもり』アルフレード、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ウェルテル』シュミット、『カルメン』レメンダードに出演、18/19シーズンには『ファルスタッフ』フェントンでリリックな歌唱で喝采を浴びた。『こうもり』アルフレードは過去2回の公演にも出演し高い評価を得た。二期会会員。



ファルケ博士:ルートヴィヒ・ミッテルハマー

Dr. Falke : Ludwig MITTELHAMMER

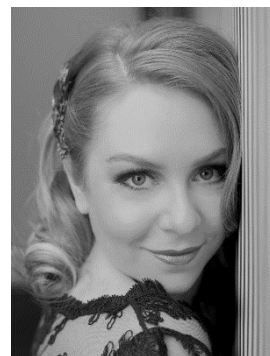
ドイツのバリトン。幼少の頃よりボーイソプラノとして研鑽を積む。2009年から15年までミュンヘン高等音楽院で学ぶ。14年にヴォルフ国際声楽コンクールで優勝した後、15/16シーズンはフランクフルト歌劇場、16年から18年はニュルンベルク歌劇場と専属契約。レパートリーには、『偽の女庭師』ナルド、『セビリアの理髪師』フィガロ、『メリー・ウィドウ』ダニロ、『ラ・ボエーム』ショナール、『魔笛』パパゲーノ、『こうもり』ファルケ博士などがある。18/19シーズンは、『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキンにデビューした。19/20シーズンはミュンヘン・ゲルトナープラッツ劇場『魔笛』パパゲーノなどに出演している。新国立劇場初登場。



アデーレ:マリア・ナザロワ

Adele : Maria NAZAROVA

ウクライナ出身。モスクワのロシア舞台芸術大学、ザルツブルク・モーツァルテウム、ウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学オペラスタジオで学ぶ。リトアニアのヴィリニウス・シティ・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、ミュンヘン・ゲルトナープラッツ劇場などに出演。15/16シーズンよりウィーン国立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』バルバリーナでデビュー。同劇場では『仮面舞踏会』オスカル、『コジ・ファン・トゥッテ』デスビーナ、『チェネレントラ』クロリンダ、『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『ウェルテル』ソフィー、『夢遊病の女』リーザ、『魔笛』パパゲーナ、『愛の妙薬』アディーナ、『こうもり』アデーレ、『仮面舞踏会』オスカル、『ラ・ボエーム』ムゼッタなど数多くの役に出演している。ウィーン国立歌劇場のほかには、16年、18年のボリショイ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』デスビーナ、18年ミラノ・スカラ座『こうもり』アデーレ、ザルツブルク音楽祭『魔笛』パパゲーナに出演しており、今後ヨーロッパの他の主要劇場にもデビュー予定である。新国立劇場初登場。

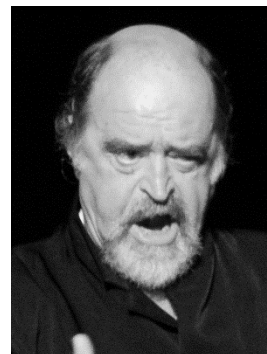


主要キャスト・スタッフ プロフィール

フロッシュ:クルト・リドル

Frosch : Kurt RYDL

ウィーン生まれ。現在最も重要なベテランバス歌手のひとり。1976年からウィーン国立歌劇場専属歌手、99年には同劇場名誉歌手となる。86年に宮廷歌手の称号を与えられる。ウィーン国立歌劇場ではワーグナーのバス全役とヴェルディ、シュトラウスを中心に、およそ1150公演に出演。ザルツブルク音楽祭には『後宮からの逃走』オスミン、『フィデリオ』ロッコ、『魔笛』ザラストロなど280公演に、またバイロイト音楽祭、ヴェローナ野外音楽祭、エディンバラ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭などにも出演。『ばらの騎士』オックス、『パルジファル』グルネマンツ、オスミン、ロッコ、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボリスなどの役で、世界の主要歌劇場で120役、2500公演に出演しており、ミラノ・スカラ座のシーズン開幕公演には『トゥーランドット』『パルジファル』『神々の黄昏』『フィデリオ』『ばらの騎士』で登場した。最近ではパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、シャンゼリゼ劇場『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、ウィーン・フォルクスオーパー『ワリー』シュトロミンガー、『群盗』マッシミリアーノ、ブエノス・アイレス・コロソ劇場『ばらの騎士』オックス、ベルリン・ドイツ・オペラ『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ボリスなどに出演。新国立劇場へは2008年『ワルキューレ』フンディングに出演して以来の登場となる。



トスカ

Tosca

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2020年9/5(土)～9/15(火)

●一般発売日: 2020 年 9/19(土)

初演: 1900 年 1 月 14 日/コスタンツィ劇場(ローマ)

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: ヴィクトリアン・サルドゥ

台本: ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイーダ・イッリカ

プロダクションについて

プッチーニの作品でも特に人気の高いオペラ『トスカ』。マダウ＝ディアツ演出は作品の真髄をイタリアの伝統的な演出手法で描いています。第1幕終盤の「テ・デウム」をはじめ、19世紀ローマを模した荘厳重厚な舞台や衣裳が大きな見どころで、新国立劇場のレパトリーの中でも屈指の人気を誇ります。冒頭のカヴァラドッシの甘美なアリア「妙なる調和」、トスカの絶唱「歌に生き、恋に生き」、カヴァラドッシの告別の歌「星は光りぬ」など全編に人気アリアが散りばめられ、1日を切り取った緊迫したドラマと共に、声のエンターテインメントとして歌手の技量も存分に楽しめる作品です。

トスカ役には“トスカ歌い”に名乗りを上げた新進ソプラノのイゾットンを、カヴァラドッシには世界屈指の人気テノール、メーリを迎えます。指揮はイタリア・オペラで絶大な信頼を集めるカッレガーリです。



2018 年公演より

あらすじ

【第1幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の1800年6月17日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会でマリア像を描いていると、アンジェロッティが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るので、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけのマリア像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかくまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第2幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッティの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッティの居場所を告白してしまう。カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第3幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は命尽きていた。そのときスカルピア殺害も発覚。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。

ジャコモ・プッチーニ

トスカ

Giacomo PUCCINI / Tosca

全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	ダニエレ・カッレガーリ
Conductor	Daniele CALLEGARI
演出	アントネッロ・マダウ＝ディアツ
Production	Antonello MADAU-DIAZ
美術	川口直次
Set Design	KAWAGUCHI Naoji
衣裳	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロツティ
Costume Design	Pier Luciano CAVALLOTTI
照明	奥畑康夫
Lighting Design	OKUHATA Yasuo
トスカ	キアラ・イゾットン
Tosca	Chiara ISOTTON
カヴァラドッシ	フランチェスコ・メーリ
Cavaradossi	Francesco MELI
スカルピア	ダリオ・ソラーリ
Scarpia	Dario SOLARI
アンジェロツティ	久保田真澄
Angelotti	KUBOTA Masumi
スポレッタ	今尾 滋
Spoletta	IMAO Shigeru
シャルローネ	大塚博章
Sciarrone	OTSUKA Hiroaki
堂 守	志村文彦
Il Sagrestano	SHIMURA Fumihiko
	ほか
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2021 年	1 月	23 日(土)14:00	25 日(月)14:00
		28 日(木)14:00	31 日(日)14:00
	2 月	3 日(水)19:00	

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

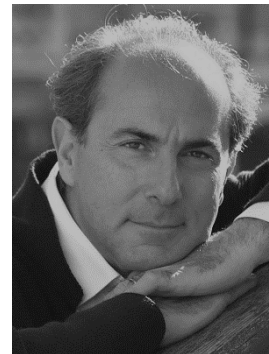
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:ダニエレ・カッレガーリ

Conductor: Daniele CALLEGARI

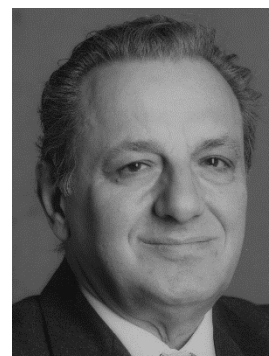
ミラノ生まれ。ミラノ・スカラ座管弦楽団メンバーとして数々の著名指揮者のもとで演奏した後、ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院に戻り指揮と作曲で卒業。ウェックスフォード・オペラ・フェスティバル、ロイヤル・フランダース・フィル首席指揮者を歴任。イタリア・オペラから20世紀作品、現代作品の世界初演まで手がけ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、リセウ大劇場、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場など世界の主要歌劇場やコンサートホールで活躍。最近では、ワシントン・オペラ『オテロ』、フェニーチェ歌劇場『蝶々夫人』、ザクセン州立歌劇場『ラ・ボエーム』、シュトゥットガルト州立劇場『メフィストフェレ』、フェニーチェ歌劇場『トゥーランドット』、モンテカルロ歌劇場『オテロ』、バイエルン州立歌劇場『蝶々夫人』『愛の妙薬』、ジュネーヴ大劇場『海賊』、サンフランシスコ・オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』などを指揮。今後の予定に、バイエルン州立歌劇場、モンテカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』、ハンブルク州立歌劇場『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』、イスラエル・オペラ『エウゲニ・オネーギン』、フェニーチェ歌劇場『リゴレット』、ストラズブル・ラン歌劇場、フェニーチェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』などがある。新国立劇場へは01年『ドン・カルロ』、08年『リゴレット』以来の登場。



演出:アントネッロ・マダウ＝ディアツ

Production: Antonello MADAU-DIAZ

イタリア・ペルージャ生まれ。フィレンツェで舞台技術と演出を学び、ヴィスコンティ、ゼッフィレッリなど世界第一級の演出家のもとで研鑽を積む。1956年ジェノヴァ市立歌劇場の『ヘンゼルとグレーテル』でオペラ演出家デビュー。以来、ミラノ、ローマなどイタリア各地をはじめ、スペイン、フランス、アメリカなど世界各地の歌劇場で200本以上の演出を手がけ、オペラ専門の演出家として活躍。いずれもイタリア・オペラの伝統を踏まえた手堅い演出で評価を得ている。58年から91年までミラノ・スカラ座に所属し、演出部長、制作部長を務めた。新国立劇場では、98年に『ナブッコ』、2000年には『トスカ』の演出を手掛けた。『トスカ』は緻密な舞台づくりと豪華な舞台装置で、新国立劇場屈指の人気レパートリーとなっている。2015年8月逝去。



トスカ:キアラ・イゾットン

Tosca : Chiara ISOTTON

イタリア・ベッルーノ出身。生地で学んだ後、ヴェネツィアのベネデット・マルチェッロ音楽院を卒業。2013年、スポレートコンクールに優勝し、スポレート・ドゥエ・モンディ音楽祭『トスカ』タイトルロールに出演。同年スカラ座アカデミーに入り、メータ指揮『アイダ』巫女でスカラ座にデビュー。15年にはアカデミーを修了し、スポレートで『ラ・ボエーム』ミミに出演した。最近では、ミラノ・スカラ座で『椿姫』フローラ、『ヘンゼルとグレーテル』ゲルトルート、名古屋の野外オペラとフェニーチェ歌劇場『トスカ』タイトルロールに出演。今後の予定にサッサリ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、トゥールーズ・キャピトル劇場『メフィストフェレ』マルゲリータなどがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

カヴァラドッシ:フランチェスコ・メーリ

Cavaradossi: Francesco MELI

ジェノヴァ出身。2002年、スポレートの『マクベス』マクダフでデビュー。ミラノ・スカラ座には23歳『カルメル会修道女の対話』でのデビュー後、これまでに2回のシーズン開幕公演を含む18作品で登場。05年にはロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ピアンカとファリエーロ』、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場シーズン開幕『ドン・ジョヴァンニ』に出演。チューリヒ歌劇場『セビリアの理髪師』、ウィーン国立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』と各地の劇場に次々と登場。09年からドラマティックな作品へ注力し、ヴェルディの主要な役に出演。13年のヴェルディ生誕200年にはローマ歌劇場とザルツブルク音楽祭で『シモン・ボッカネグラ』『二人のフォスカリ』『エルナーニ』『ナブッコ』に出演。メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、スカラ座などの著名劇場で活躍するほか、トリノ五輪開会式にも出演した。最近の出演に、ロンドン、ジェノヴァ、ウィーンで『シモン・ボッカネグラ』、スカラ座『エルナーニ』『椿姫』、フェニーチェ歌劇場『アイーダ』などがある。19/20シーズンはフェニーチェ歌劇場『カルメン』、ウィーン国立歌劇場『仮面舞踏会』のほか、スカラ座でシーズン開幕公演『トスカ』及び『イル・トロヴァトーレ』『椿姫』『ラ・ジョコンダ』に出演予定。新国立劇場初登場。



スカルピア:ダリオ・ソラーリ

Scarpia : Dario SOLARI

ウルグアイ出身。ヴェルディやベルカントのレパートリーにおける最も重要なバリトン歌手のひとりで、ベルリン・ドイツ・オペラ、イスラエル・オペラ、ライプツィヒ歌劇場、フランクフルト歌劇場、モンテカルロ歌劇場、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、デンマーク王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、トリノ王立歌劇場、ローマ歌劇場など世界の重要歌劇場で活躍。特に重要な出演に、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場『マクベス』タイトルロール、モンテカルロ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『ドン・カルロ』ロドリゴ、フィレンツェ歌劇場、ヴェローナ歌劇場『カルメン』エスカミーリョ、ウェルシュ・ナショナル・オペラ、ラヴェンナ音楽祭『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、ローマ歌劇場、パームビーチ・オペラ『椿姫』ジェルモンなどがある。最近の出演に、ボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ライプツィヒ歌劇場『ナブッコ』『カルメン』、イスラエル・オペラ『カルメン』、フランクフルト歌劇場『トスカ』、ボローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、シュトゥットガルト州立劇場『蝶々夫人』、ポーランド国立歌劇場『マクベス』、ナンシー歌劇場『蝶々夫人』、ブエノス・アイレス・コロソ劇場『ドン・パスクワレ』がある。新国立劇場初登場。



フィガロの結婚

Le Nozze di Figaro

オペラパレス | 4回公演 | 全4幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2020年9/27(日)~10/7(水)

●一般発売日: 2020 年 10/11(日)

初演: 1786年5月1日/ウィーン・ブルク劇場

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

原作: ピエール=オーギュスタン・ボーマルシェ

台本: ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

伯爵の召使いフィガロと恋人スザンナの結婚をめぐる一日の騒動が活き活きと描かれた、モーツァルト不朽の名作。単独で演奏されることも多い軽快な序曲に始まり、「恋とはどんなものかしら」(ケルビーノ)、「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」(フィガロ)、「愛の神様、手をさしのべてください」「楽しい思い出はどこへ」(伯爵夫人)と、全編思わず口ずさみたくなるような有名な曲が続きます。

現代最高のオペラ演出家のひとり、ホモキの演出では、モノトーンの舞台を登場人物が縦横無尽に動き回り、徐々に社会的秩序が取り払われて、ピュアな人間性が生き生きと描き出されます。比類ない完成度の舞台と高く評価され、新国立劇場の看板演目のひとつとして人気を博しているプロダクションです。キャストにはブリアンテ、ガンベローニ、モラーチェとイタリアから伸び盛りの歌手を招聘するほか、『紫苑物語』で定評ある可憐な美声と感情表現で難役をこなした白木あい、ロッシーニやモーツァルトでイタリアの歌劇場の主演級に出演を重ね、『ドン・ジョヴァンニ』でも卓越した声楽表現と闊達な演技で観客を魅了した脇園彩が登場。指揮にはピドが待望の新国立劇場デビュー。丁々発止のやり取りが楽しみな顔ぶれです。



2017 年公演より

あらすじ

【第1幕】アルマヴィーヴァ伯爵の使用人フィガロとスザンナは結婚目前。しかし伯爵はスザンナを狙っており、女中頭マルチェリーナは借金の証文をたてにフィガロとの結婚を目論んでいる。小姓ケルビーノがスザンナに伯爵夫人への恋心を語っていると、伯爵が来たため、慌てて隠れる。伯爵がスザンナに迫っていると、今度はドン・バジリオが来て、伯爵も大慌てで隠れる。ケルビーノが伯爵夫人に熱い視線を送っていたとバジリオが語るの、伯爵が怒って姿を現す。伯爵はケルビーノに軍隊入りを命じる。

【第2幕】夫の愛が冷めてしまったと嘆く伯爵夫人。フィガロは伯爵夫人とスザンナに、ケルビーノを女装させて伯爵を懲らしめようと話す。さっそく仕度しようとケルビーノと二人きりになった瞬間に伯爵が部屋に来たため、伯爵夫人は急いでケルビーノを衣裳室に隠す。愛人が潜んでいると疑う伯爵は、伯爵夫人と押し問答の末に、扉を開ける。すると、中にはスザンナがいて、伯爵も伯爵夫人も哑然。フィガロの機転で窮地を脱するが、今度はマルチェリーナが契約通りフィガロと結婚させると訴えてきて、大混乱になる。

【第3幕】借金をめぐる裁判で、フィガロがマルチェリーナとバルトロの子であることが判明。3人は親子の再会を喜ぶ。伯爵夫人とスザンナは衣裳を交換して男たちと逢引する計画を立てる。フィガロとスザンナ、マルチェリーナとバルトロの結婚式が行われ、その間にスザンナは伯爵に誘いの手紙を渡す。

【第4幕】夜。伯爵はスザンナと逢引きするが、その中身は伯爵夫人だと全く気づかない。フィガロが伯爵夫人を口説くのを見た伯爵は怒るが、女性二人が入れ替わっていたことを知り呆然。伯爵は非を認め大団円となる。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

フィガロの結婚

Wolfgang Amadeus MOZART / Le Nozze di Figaro

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	エヴェリーノ・ピド
Conductor	Evelino PIDO
演出	アンドレアス・ホモキ
Production	Andreas HOMOKI
美術	フランク・フィリップ・シュレスマン
Set Design	Frank Philipp SCHLÖSSMANN
衣裳	メヒルト・ザイペル
Costume Design	Mechthild SEIPEL
照明	フランク・エヴァン
Lighting Design	Franck EVIN
アルマヴィーヴァ伯爵	ヴィート・プリアンテ
Il Conte Almaviva	Vito PRIANTE
伯爵夫人	セレーナ・ガンベローニ
La Contessa	Serena GAMBERONI
フィガロ	フィリッポ・モラーチェ
Figaro	Filippo MORACE
スザンナ	臼木あい
Susanna	USUKI Ai
ケルビーノ	脇園 彩
Cherubino	WAKIZONO Aya
バルトロ	妻屋秀和
Bartolo	TSUMAYA Hidekazu
バジリオ	青地英幸
Basilio	AOCHI Hideyuki
アントーニオ	大久保光哉
Antonio	OKUBO Mitsuya
バルバリーナ	吉原圭子
Barbarina	YOSHIHARA Keiko
ほか	
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2021 年	2 月	7 日(日)14:00	9 日(火)18:30
		11 日(木・祝)14:00	14 日(日)14:00

【チケット料金】 S:22,000円 ・ A:16,500円 ・ B:11,000円 ・ C:6,600円 ・ D:3,300円

【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:エヴェリーノ・ピド

Conductor: Evelino PIDÒ

イタリア出身。イタリア・オペラ、フランス・オペラで特に名高い世界有数の指揮者であり、世界の著名劇場で活躍。最近のハイライトに、ウィーン国立歌劇場での数々のオペラ公演、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバルへのデビュー、新日本フィルへのデビューをはじめ、パリ・オペラ座『チェネレントラ』、英国ロイヤルオペラ『連隊の娘』『ドン・パスクワレ』、ミラノ・スカラ座『リゴレット』（ハウスデビュー）と『ラ・ボエーム』、マドリッド・テアトロ・レアル『清教徒』、リヨン歌劇場『ゼルミール』、モネ劇場『アドリアーナ・ルクヴール』（演奏会形式）、ウィーン国立歌劇場『アンナ・ボレーナ』『ドン・パスクワレ』、リセウ大劇場『椿姫』、ボリショイ劇場『リゴレット』、ブエノス・アイレス・コロン劇場『椿姫』、パリ・オペラ座『トスカ』『ドン・パスクワレ』、英国ロイヤルオペラ『イタリアのトルコ人』、ジュネーヴ大劇場『ワリー伯爵』、パレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『シモン・ボッカネグラ』がある。2012年、ベッリーニ・ドーロ賞受賞。リヨン歌劇場『愛の妙薬』やヴィットーリオ・グリゴロのフランスアリア集など録音や映像も高く評価されており、ナタリー・デセイが出演したリヨン歌劇場『連隊の娘』はディアパソン・ドーラ賞を受賞した。来日も多く日本でのファンも多い。新国立劇場初登場。



演出:アンドレアス・ホモキ

Production: Andreas HOMOKI

ドイツのマール生まれ。1987年から92年までケルン歌劇場でアシスタント・ディレクターを務める。ジュネーヴ大劇場92/93シーズン開幕の『影のない女』の演出で大成功を収め、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』、デンマーク王立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』、バーゼル歌劇場『エレクトラ』、バイエルン州立歌劇場『アラベッラ』、オランダ国立オペラ『ルル』などヨーロッパ各地で活躍。2002年からベルリン・コーミッシェ・オーパーの首席演出家、04年から12年まで総監督を務め、『フィレンツェの悲劇』『金鶏』『マハゴニー市の興亡』『ハムレット』などを取り上げ、07年のOpernwelt誌年間最優秀オペラハウスに選ばれるなど話題を巻き起こす。12年エクサン・プロヴァンス音楽祭でのシャルパンティエ『ダビデとヨナタン』の洗練された演出で好評を博す。12/13シーズンからチューリヒ歌劇場総監督。チューリヒでは『さまよえるオランダ人』『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『ローエングリン』『ヴォツェック』『清教徒』『ナブッコ』などを演出。日本では08年びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ばらの騎士』などを演出。新国立劇場では03年『フィガロの結婚』、07年『西部の娘』を演出している。



アルマヴィーヴァ伯爵:ヴィート・プリアンテ

Il Conte Almaviva : Vito PRIANTE

ナポリ生まれ。ドイツ文学、フランス文学を学んだ後、2002年にフィレンツェで『奥様女中』ウベルトでデビュー。以来、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、シャンゼリゼ劇場、ロサンゼルス・オペラ、カナディアン・オペラ・カンパニー、BBCプロムス、ザルツブルク音楽祭、英国ロイヤルオペラなど欧米の歌劇場、音楽祭に出演。レパートリーには『フィガロの結婚』『セビリアの理髪師』のアルマヴィーヴァ伯爵とフィガロ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレボレッロ、『チェネレントラ』ダンディーニ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ロベルト・デヴェリュー』ノッティンガム公爵、『イタリアのトルコ人』ブロードーチモ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『連隊の娘』ベルフィオーレ、『ホフマン物語』悪役四役、『カルメン』エスカミーリョ、『魔笛』パパゲーノなどがある。最近の出演に、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レボレッロ、バイエルン州立歌劇場『ロベルト・デヴェリュー』ノッティンガム公爵、英国ロイヤルオペラ『魔笛』パパゲーノ、今後の予定にカナディアン・オペラ・カンパニー『セビリアの理髪師』フィガロ、メトロポリタン歌劇場『チェネレントラ』ダンディーニ、シュトゥットガルト州立劇場『ホフマン物語』悪役四役がある。新国立劇場初登場。

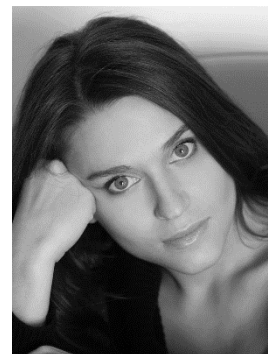


主要キャスト・スタッフ プロフィール

伯爵夫人:セレーナ・ガンベローニ

La Contessa : Serena GAMBERONI

イタリア出身。2000年にヴェローナで『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナに出演してデビュー。ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場で『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ、『仮面舞踏会』オスカル、『ドン・パスクワレ』ノリーナに、トリノ王立歌劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、パルマ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、『ウェルテル』などに出演。『ファルスタッフ』ナンネッタでアンコーナ、ヴェローナ、ローマ歌劇場に、『仮面舞踏会』オスカルでパルマ・ヴェルディ音楽祭、トリノ、ヴェローナ音楽祭に出演し、同役でミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラにデビュー。最近の出演に、パレルモ・マッシモ劇場『ウェルテル』、ジェノヴァで『トゥーランドット』、カリアリ歌劇場、フィレンツェ歌劇場で『フィガロの結婚』伯爵夫人（ロールデビュー）、フェニーチェ歌劇場『仮面舞踏会』、英国ロイヤルオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナなどがある。19/20シーズンはブレーシャで『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、ピアチェンツァ、モデナ、レッジョ＝エミリアで『ファルスタッフ』アリーチェなどに出演予定。新国立劇場初登場。



フィガロ:フィリッポ・モラーチェ

Figaro : Filippo MORACE

ナポリ出身。サレルノ音楽院を卒業直後にロベルト・デ・シモーネに抜擢され、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』（ドニゼッティ）に出演。99年スポレートでコンクールに優勝し同地で『オベルト、サン・ボニファッチョ伯爵』（ヴェルディ）タイトルロールに出演。サン・カルロ歌劇場で『チェネレントラ』『焼きもち焼きの夫』（チマローザ）『イエヌーファ』『セビリアの理髪師』『ラ・ボエーム』『トスカ』『イタリアのトルコ人』『空想のソクラテス』（パイジェッロ）などで活躍するほか、ミラノ・スカラ座『ラ・ボエーム』『空想のソクラテス』『トスカ』、フェニーチェ歌劇場『セビリアの理髪師』（パイジェッロ、ロッシーニ）、ボローニャ歌劇場『ランスへの旅』『ラ・ボエーム』、ローマ歌劇場『アルジェのイタリア女』『セビリアの理髪師』、マチェラータ音楽祭『ラ・ボエーム』、トリエステ歌劇場『ピーター・グライムズ』、モンテカルロ歌劇場『ランスへの旅』、モネ劇場『セビリアの理髪師』（ペルゴレージ）、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『美女たちの勝利』などに出演。最近ではトリノ王立劇場『アニーゼ』（バエール作曲）、サレルノ歌劇場『連隊の娘』シュリビス、同劇場『魔笛』パパゲーノ、フィレンツェ歌劇場『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』、イェージ・ペルゴレージ・スポンティエーニ・フェスティバル『妹に恋した兄』などに出演している。新国立劇場初登場。



スザンナ:臼木あい

Susanna : USUKI Ai

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程・博士後期課程修了。博士号（音楽）取得。二期会オペラ研修所第47期マスタークラス修了。安宅賞・松田トシ賞・三菱地所音楽賞受賞。第72回日本音楽コンクール第1位。06年ザルツブルクのモーツァルテウム音楽院に留学。国内では東京二期会『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、日生劇場（及び韓国公演）『夕鶴』つう、『ヘンゼルとグレーテル』（ブレーメン劇場版）グレーテル、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ラ・ボエーム』ムゼッタ、日生劇場開場50周年記念『リア』コーディリア、狂言演出による『リヴィエッタとトラコッコ』リヴィエッタ、北とぴあ国際音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ等を演じる。新国立劇場にはバレエ公演『カルミナ・ブラーナ』ソプラノソロ、オペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、同鑑賞教室・関西公演『愛の妙薬』アディーナに出演、『紫苑物語』千草では卓越したコロラトゥーラの技術と神秘的な役作りで国内外のメディアから絶賛された。「NHKニューイヤーオペラコンサート」などコンサートでもソリストとして活躍している。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ケルビーノ: 脇園 彩

Cherubino : WAKIZONO Aya

東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。文化庁派遣芸術家在外研究員としてバルマ国立音楽院に留学。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルのアカデミーに参加し14年『ランスへの旅』でイタリアでのオペラデビュー。ミラノ・スカラ座アカデミー修了、スカラ座に子供のための『チェネレントラ』でデビュー。ミラノ・スカラ座アカデミー、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ歌劇場で『セビリアの理髪師』ロジーナ、マルティーナ・フランカでメルカダnte『フランチェスカ・ダ・リミニ』パオロ（世界初演）、ヴェローナ・フィラモニコ劇場『チェネレントラ』アンジェリーナ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、トリエステ・ヴェルディ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ナブッコ』フェネーナ、パレルモ・マッシモ劇場『イドメネオ』イダマンテなどに出演している。最近ではパリ・ペトルツェリ歌劇場『セビリアの理髪師』、サッサリ歌劇場『チェネレントラ』に出演。日本では藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナでデビュー。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラでデビューし、今年2月には『セビリアの理髪師』ロジーナで再登場予定。



ワルキューレ

"Der Ring des Nibelungen" Erster Tag
 Die Walküre

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2020年10/24(土)～11/3(火・祝)

●一般発売日: 2020 年 11/7(土)

初演: 1870 年 6 月 26 日/バイエルン宮廷歌劇場
 作曲・台本: リヒャルト・ワーグナー

プロダクションについて

「ニーベルングの指環」全四部作の中で群を抜いて人気が高く、単独で上演される機会も多い作品『ワルキューレ』。ジークムントと双子の妹ジークリンデの禁断の愛、神々の長ヴォータンと愛娘ブリュンヒルデの永遠の別れなど、哀切に満ちた物語が甘美な音楽でドラマティックに描かれます。有名な「ワルキューレの騎行」をはじめ、ジークムントの「冬の嵐は過ぎ去り」、「ヴォータンの告別」などはコンサートで独立して演奏されることも多い有名曲です。

新国立劇場で2015年からの3年間をかけて上演し、明快でかつ哲学に満ちた美しい舞台と反響を呼んだ巨匠ゲッツ・フリードリヒの「指環」、このプロダクションを導入し自ら指揮した飯守泰次郎前芸術監督を、再びオペラパレスの指揮台へ招きます。ブリュンヒルデに16年公演でも同役を歌ったイレネ・テオリン、ジークムントには世界の歌劇場で新世代のヘルデンテノールとして活躍するキルヒ、ヴォータンに主要劇場のワーグナー公演で出演を重ねるシリンス、フリッカには藤村実穂子と、世界最高峰のワーグナー歌手が集まります。



2016 年公演より

あらすじ

【第1幕】戦いの末、追手から逃げるジークムントは、森の中の家に入り、暖炉の側に倒れ込む。ジークリンデは見知らぬ男の突然の訪問に驚きながらも介抱する。帰宅した夫フンディングは、男の顔が妻と瓜二つなことを訝る。ジークムントは身の上を語る。母は殺され、双子の妹とは生き別れ、父も行方不明になった、と。ジークムントこそ今追っていた敵だと気づいたフンディングは、今晚は客として迎え入れるが明朝は決闘だと言い放って部屋を離れる。家のトネリコの木に刺さる剣。誰も引き抜けなかったが、ジークムントは難なく引き抜き、これこそ父が約束した霊剣ノートゥングだと悟る。2人は生き別れた双子の兄妹だと分かり、運命的な恋に落ち、家を出る。

【第2幕】ジークムントとジークリンデは神ヴォータンと人間の間の子であり、ヴォータンは、息子とフンディングの決闘で息子を勝たせるつもりでいた。しかし結婚の神・妻フリッカに双子の結婚を咎められ、息子の勝利を取り上げることにする。その役目をヴォータンの最愛の娘でワルキューレ（戦乙女）の1人ブリュンヒルデに任せる。ブリュンヒルデはジークムントに死の定めを伝えるが、彼の思いに心打たれ、助けることを決意。しかしジークムントの剣はヴォータンの力で粉々になり、フンディングに刺されて死ぬ。ブリュンヒルデはジークリンデと逃げる。

【第3幕】亡くなった英雄の魂を運ぶワルキューレたちが岩山に集まっている。そこにジークリンデを連れたブリュンヒルデが、助けを求めにやって来る。ブリュンヒルデは一番早い馬を用意し、ジークムントとの新しい命を宿したジークリンデを森へ逃がす。命に背いたブリュンヒルデに怒るヴォータンは、彼女の力を奪い、眠りに閉じ込め、目覚めさせた男の妻になるという厳罰を与える。ブリュンヒルデは、炎に囲まれた岩山で深い眠りに落ちる。

リヒャルト・ワーグナー
楽劇「ニーベルングの指環」第1日

ワルキューレ

Richard WAGNER

“Der Ring des Nibelungen” Erster Tag

Die Walküre

全3幕(ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付)

指揮	飯守泰次郎
Conductor	IIMORI Taijiro
演出	ゲッツ・フリードリヒ
Production	Götz FRIEDRICH
美術・衣裳	ゴットフリート・ピルツ
Set and Costume Design	Gottfried PILZ
照明	キンモ・ルスケラ
Lighting Design	Kimmo RUSKELA
ジークムント	ダニエル・キルヒ
Siegmund	Daniel KIRCH
フンディング	アイン・アンガー
Hunding	Ain ANGER
ヴォータン	エギルス・シリンス
Wotan	Egils SILINS
ジークリンデ	エリザベート・ストリッド
Sieglinde	Elisabet STRID
ブリュンヒルデ	イレーネ・テオリン
Brünnhilde	Irène THEORIN
フリッカ	藤村実穂子
Fricka	FUJIMURA Mihoko
ゲルヒルデ	佐藤路子
Gerhilde	SATO Michiko
オルトリンデ	増田のり子
Ortlinde	MASUDA Noriko
ヴァルトラウテ	増田弥生
Waltraute	MASUDA Yayoi
シュヴェルトライテ	中島郁子
Schwertleite	NAKAJIMA Ikuko
ヘルムヴィーゲ	平井香織
Helmwige	HIRAI Kaori
ジークルーネ	小泉詠子
Siegrune	KOIZUMI Eiko
グリムゲルデ	金子美香
Grimgerde	KANEKO Mika
ロスヴァイセ	田村由貴絵
Rossweisse	TAMURA Yukie
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

A Production of the Finnish National Opera

2021 年 3 月	11 日(木)16:30	14 日(日)14:00
	17 日(水)16:30	20 日(土・祝)14:00
	23 日(火)14:00	

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

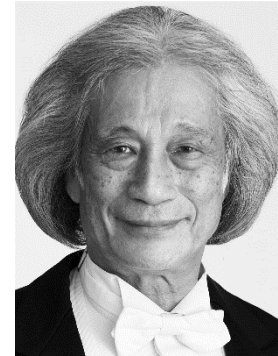
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:飯守泰次郎

Conductor: ILMORI Taijiro

桐朋学園短期大学卒業。在学中に藤原歌劇団公演『修道女アンジェリカ』にてデビュー。1966年ミトロプーロス国際指揮者コンクール、69年カラヤン国際指揮者コンクールとともに第4位入賞。72年、芸術選奨新人賞とバルセロナのシーズン最高指揮者賞を受賞。これまでに読売日響指揮者、ブレーメン、マンハイム、ハンブルク、レーゲンスブルクの各歌劇場の指揮者、エンスヘデ市立歌劇団第一指揮者、名古屋フィル常任指揮者、東京シティ・フィル常任指揮者、関西フィル常任指揮者を歴任。現在、仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、東京シティ・フィル桂冠名誉指揮者、関西フィル桂冠名誉指揮者。第32回サントリー音楽賞、第54回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。2004年11月紫綬褒章、10年旭日小綬章、12年度文化功労者、日本芸術院賞。14年より日本芸術院会員。第56回毎日芸術賞（音楽部門）受賞。新国立劇場では00年『青ひげ公の城』、08年地域招聘公演『ナクソス島のアリアドネ』、12年オペラ研修所公演『フィレンツェの悲劇』『スペインの時』、14年『パルジファル』、15年『さまよえるオランダ人』『ラインの黄金』、16年『ローエングリン』『ワルキューレ』、17年『ジークフリート』『神々の黄昏』、18年『フィデリオ』を指揮。14年9月から18年8月まで新国立劇場オペラ芸術監督を務めた。



演出:ゲッツ・フリードリヒ

Production: Götz FRIEDRICH

1930年ドイツのナウムブルク生まれ。ワイマールのドイツ演劇学院卒業後、旧東ドイツ時代のベルリン・コーミッシェ・オーパーで名演出家のワルター・フェルゼンシュタインの助手を務める。72年のパイロイト音楽祭で『タンホイザー』の演出を手がけて注目を集め、81年にはベルリン・ドイツ・オペラの総監督に就任。以後、斬新なプロダクションを次々に展開して同オペラハウスを西ドイツの文化をリードする象徴として育て上げた。その演出は没後も脈々と受け継がれ、ベルリン・ドイツ・オペラにて上演されている。主な作品として、『ニーベルングの指環』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』『ローエングリン』『パルジファル』『ばらの騎士』『アラベッラ』『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』『アイダ』『ファルスタッフ』『仮面舞踏会』『椿姫』『フィガロの結婚』『エウゲニ・オネーギン』『ヴォツェック』などがあり、新国立劇場においては、2000年11月に『青ひげ公の城』、15年から17年に『ニーベルングの指環』4部作が上演された。2000年12月逝去。



ジークムント:ダニエル・キルヒ

Siegmund : Daniel KIRCH

ドイツ出身。ケルン音楽大学で学ぶ。97/98シーズンからベルリン・コーミッシェ・オーパー専属歌手となり、後にゲストとして出演を重ねる。これまでにベルリン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ミラノ・スカラ座、ザクセン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ケルン歌劇場、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭、モネ劇場、リセウ大劇場などに出演。最近では、北京、カールスルーエ、ライブツィヒなどで『ニュルンベルクのマイスタージンガー』シュトルツィング、シュトゥットガルトで『フィデリオ』『パルジファル』、リヨンで『トリスタンとイゾルデ』、ライブツィヒで『タンホイザー』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムント、『パルジファル』タイトルロールに出演。18/19シーズンはケムニッツで『ジークフリート』『神々の黄昏』ジークフリート、バイエルン州立歌劇場『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、マドリッド・テアトロ・レアル、ザクセン州立歌劇場で『フィデリオ』フロレスタンなどに出演した。19/20シーズンはライブツィヒ歌劇場『トリスタンとイゾルデ』トリスタン、バイエルン州立歌劇場『カール五世』（クルシェネク作曲）フランシスコ・ボルジアに出演したほか、ケムニッツで『ジークフリート』『神々の黄昏』、パレルモ・マッシモ劇場『パルジファル』に出演予定。新国立劇場では15年『さまよえるオランダ人』エリックに出演している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

フンディング:アイン・アンガー

Hunding: Ain ANGER

エストニア出身。今日最高のバス歌手のひとりとして著名歌劇場で活躍。パイロイト音楽祭に『ラインの黄金』ファフナーで、ミラノ・スカラ座へは『さまよえるオランダ人』ダーラントでデビュー。『ニーベルングの指環』でバイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、フランクフルト歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、英国ロイヤルオペラへ出演。最近『タンホイザー』ヘルマン、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王とレパートリーを広げている。ウィーン国立歌劇場へは2004年に『リゴレット』モンテローネでデビューし、『ローエングリン』ハインリヒ王、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『ナブッコ』ザッカリア、『シモン・ボッカネグラ』フィエスコなどに出演。ベルリン・ドイツ・オペラでは『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールにデビュー。パリ・オペラ座で『ボリス・ゴドゥノフ』『ドン・ジョヴァンニ』に出演。19/20シーズンはエディンバラ音楽祭『神々の黄昏』ハーゲンに出演したほか、マドリッド・テアトロ・レアル『ワルキューレ』フンディング、ウィーン国立歌劇場『ローエングリン』『ワルキューレ』、パイロイト音楽祭『ラインの黄金』ファーフルト、『神々の黄昏』ハーゲンに出演予定。新国立劇場初登場。



ヴォータン:エギルス・シリンス

Wotan : Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。ブレゲンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グライントボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。『ニーベルングの指環』ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナル、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70に及ぶ。19/20シーズンはウィーン国立歌劇場『ローエングリン』テルラムント、デンマーク王立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、オランダ音楽祭『サロメ』、ビルバオ・オペラ『サムソンとデリラ』大祭司、ヴィースバーデン5月音楽祭『エレクトラ』に出演予定。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。



ジークリンデ:エリザベート・ストリッド

Sieglinde : Elisabet STRID

スウェーデン出身。ストックホルム大学で声楽を学ぶ。2010年から国際的に活躍、ザクセン州立歌劇場、ノルウェー国立オペラ、フィンランド国立歌劇場、リール歌劇場、フランダース・オペラ、イェーテボリ・オペラ、タンペレ音楽祭、ブダペスト・ワーグナー・デイズなどに出演。13年にミシガン・オペラでアメリカ・デビュー。同年、パイロイト音楽祭に『ラインの黄金』フライアでデビュー。ワーグナーやR. シュトラウス、また『ルサルカ』『蝶々夫人』などをレパートリーとし、17年にはライブツィヒでサロメ役にデビュー、大成功を収めた。19年はイスラエル・オペラ、ボローニャ歌劇場、ライブツィヒ歌劇場でサロメに出演。香港アートフェスティバル『タンホイザー』エリーザベト、シュトゥットガルト州立劇場、ライブツィヒ歌劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ、ライン・ドイツ・オペラで『ワルキューレ』ジークリンデと『スペードの女王』リーザに出演。今後の予定にベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』ヴェーヌスとエリーザベト、マドリッド・テアトロ・レアル、イェーテボリ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場で『ワルキューレ』ジークリンデがある。新国立劇場初登場。

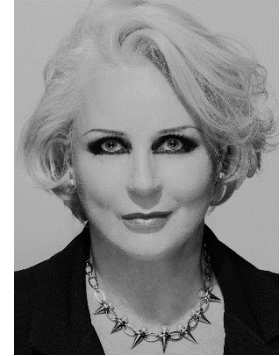


主要キャスト・スタッフ プロフィール

ブリュンヒルデ: イレーネ・テオリン

Brünnhilde : Irène THEORIN

現代を代表するドラマティックソプラノの一人として世界中で活躍している。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、リセウ大劇場、モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、ローマ歌劇場など一流歌劇場、音楽祭に出演している。特にドイツ・オペラのドラマティックな役を得意とし『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『エレクトラ』タイトルロール、『影のない女』バラクの妻などで活躍。トゥーランドット役も得意とし、英国ロイヤルオペラ、サンフランシスコ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場など多くの劇場で演じている。その豊かな音楽性、人を惹きつけるパフォーマンスと声の柔軟性は高く評価されている。新国立劇場には2008年及び19年の『トゥーランドット』タイトルロール、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、11年『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、16年『ワルキューレ』ブリュンヒルデに出演している。



フリッカ: 藤村実穂子

Fricka : FUJIMURA Mihoko

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院修了。2002年に主役級としては日本人で初めてバイロイト音楽祭にデビュー、以来9年連続出演する。ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場などに出演し、ティーレマン、アバド、メータ、エッシェンバッハ、ハイティンク、シャイー等の著名指揮者や、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロンドンフィル、パリ管、バイエルン放送響、ゲヴァントハウス管などと共演。また、ドミンゴ、パッパノーとのスタジオ録音による『トリスタンとイゾルデ』で注目を浴びる。20年3月にはメトロポリタン歌劇場へ『さまよえるオランダ人』マリーでデビュー予定。出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞の各賞を受賞、紫綬褒章受章。新国立劇場には、01年~02年「ニーベルングの指環」フリッカ、ヴァルトラウテ、01年『ドン・カルロ』エボリ公女、06年『イドメネオ』イダマンテ、19年『ウェルテル』シャルロットに出演している。



夜鳴きうぐいす / イオランタ

Le Rossignol / Iolanta

オペラパレス | 4回公演

『夜鳴きうぐいす』全3幕<ロシア語上演／日本語及び英語字幕付>
『イオランタ』全1幕<ロシア語上演／日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間：2020年11/8(日)～11/18(水)
●一般発売日：2020年11/22(日)

【夜鳴きうぐいす / Le Rossignol】

初演：1914年5月26日、パリ・オペラ座

作曲：イーゴリ・ストラヴィンスキー

原作：ハンス・アンデルセン

台本：イーゴリ・ストラヴィンスキー、ステファン・ミトゥーソフ

【イオランタ / Iolanta】

初演：1892年12月6日（現行歴12月18日）、マリインスキー劇場

作曲：ピョートル・チャイコフスキー

原作：ヘンリク・ヘルツ、ウラディーミル・ゾートフ

台本：モデスト・チャイコフスキー

プロダクションについて

レパートリーの拡充を目指し、ダブルビル（2本立て公演）を1年おきに新制作上演するシリーズの第2弾にして、ロシア・オペラの第2弾。『夜鳴きうぐいす』は、『火の鳥』『ペトルーシュカ』『春の祭典』で時代の寵児となったストラヴィンスキーが発表した作品で、アンデルセン童話『夜鳴きうぐいす（ナイチンゲール）』を原作とした幻想的なオペラ。『イオランタ』は、チャイコフスキー最後のオペラで、『くるみ割り人形』と同時上演するために書かれた一幕物。盲目の少女が愛と希望に開眼する物語が詩情豊かに歌い上げられる、晩年のチャイコフスキー珠玉の作品です。童話や伝説をもとに、寓意的な物語と、無垢な登場人物と迷える人々の心の交流が抒情的な音楽で描かれる、ロマンティックな小品の2本立てです。

演出には、舞台美術家、演出家として世界一流歌劇場で活躍し数々の賞を受賞している名匠ヤニス・コッコスがあたり、『エウゲニ・オネーギン』で精緻な指揮が高く評価されたアンドリー・ユルケヴィチを指揮に迎えます。

あらすじ

【夜鳴きうぐいす】

夜。漁師が夜鳴きうぐいすの声に聞き惚れていると、皇帝の命で家来たちがやって来る。病の皇帝の所望と懇願され、うぐいすは宮中へ赴く。宮廷で夜鳴きうぐいすが歌い始めると、皇帝はみるみる快復し、感涙にむせぶ。うぐいすは「その涙で充分」と、皇帝の差し出す褒美を受け取ろうとしない。そこへ来た異国の使者が、機械仕掛けのうぐいすを献上する。皇帝が聴き比べようとすると、本物のうぐいすの姿がない。怒った皇帝は逃げたうぐいすを国外追放とし、機械仕掛けのうぐいすを寝室へ運ぶが、皇帝の病はみるみる悪化、死神まで現れた上、機械仕掛けのうぐいすも動かなくなってしまう。そこへあの夜鳴きうぐいすが舞い戻り、美しい声で死神の心を動かして立ち去らせる。感謝する皇帝に、うぐいすは毎晩歌いに来ることを約束するのだった。

【イオランタ】

中世南フランスのとある山中の城。ルネ王は盲目に生まれたイオランタを、自らが盲目であると気づかぬように、外界との接触を避けて育ててきた。王は娘のために医師を招くが、イオランタ本人の治療への意志なくして治らないと言われる。城に二人の青年ロベルトとヴォデモンが迷い込む。ヴォデモンは美しく純粋なイオランタに魅了されるが、やがてイオランタが盲目であることに気付き、光の世界の素晴らしさを話して聞かせる。事態を悟った王は、「侵入者は処刑する掟だが、イオランタの目が治れば罪を許す」と宣言。イオランタはヴォデモンを救うため、治療に耐える決心をする。一方ロベルトが幼くして決められたイオランタの許嫁であることが明らかになり、ロベルトが婚約解消を申し出るので、王はヴォデモンの求婚を受け入れる。施術を終えたイオランタが登場。王が二人を祝福し、一同喜びに包まれて光を讃える。

イーゴリ・ストラヴィンスキー／ピョートル・チャイコフスキー

夜鳴きうぐいす／イオランタ

Igor STRAVINSKY "Le Rossignol" / Pyotr TCHAIKOVSKY "Iolanta"

『夜鳴きうぐいす』全3幕／『イオランタ』全1幕〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	アンドリー・ユルケヴィチ
Conductor	Andriy YURKEVYCH
演出・美術・衣裳	ヤニス・コッコス
Production, Set and Costume Design	Yannis KOKKOS
照明	ヴィニチオ・ケリ
Lighting Design	Vinicio CHELI
映像	エリック・デュラント
Video	Eric DURANTEAU

【夜鳴きうぐいす／Le Rossignol】

夜鳴きうぐいす	ハスミック・トロシヤン
Le Rossignol	Hasmik TOROSYAN
料理人	針生美智子
La Cuisinière	HARIU Michiko
漁師	伊藤達人
Le Pêcheur	ITO Tatsundo
中国の皇帝	ニカラズ・ラグヴィラーヴァ
L'Empereur de Chine	Nikoloz LAGVILAVA
従者	ヴィタリ・ユシュマノフ
Le Chambellan	Vitaly YUSHMANOV
僧侶	志村文彦
Le Bonze	SHIMURA Fumihiko
死神	山下牧子
La Mort	YAMASHITA Makiko

【イオランタ／Iolanta】

ルネ	妻屋秀和
René	TSUMAYA Hidekazu
ロベルト	ユーリ・ユルチュク
Robert	Yuriy YURCHUK
ヴォデモン伯爵	ヴィクトル・アンティペンコ
Le Comte Vaudémont	Viktor ANTIPENKO
エブン＝ハキア	ニカラズ・ラグヴィラーヴァ
Ibn-Hakia	Nikoloz LAGVILAVA
アルメリック	村上公太
Alméric	MURAKAMI Kota
ベルトラン	大塚博章
Bertrand	OTSUKA Hiroaki
イオランタ	エカテリーナ・シウリーナ
Iolanta	Ekaterina SIURINA
マルタ	山下牧子
Martha	YAMASHITA Makiko
ブリギッタ	日比野幸
Brigitta	HIBINO Miyuki
ラウラ	富岡明子
Laura	TOMIOKA Akiko

ほか

合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2021 年	4 月	4 日(日)14:00	6 日(火)14:00
		8 日(木)19:00	11 日(日)14:00

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

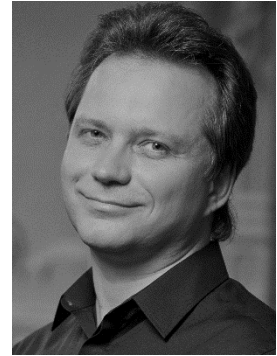
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: アンドリー・ユルケヴィチ

Conductor: Andriy YURKEVYCH

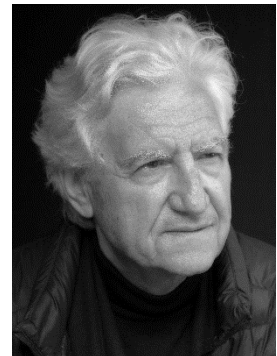
ウクライナ出身。1996年以降、リヴィウ国立オペラ指揮者、オデッサ・オペラ・バレエ劇場指揮者、ポーランド国立歌劇場・ワルシャワ大劇場音楽監督を歴任し、現在、モルドバ国立オペラ・バレエ劇場首席指揮者。これまでにサンティアゴ・テアトロ・ムニシパル、サンフランシスコ・オペラ『連隊の娘』『リゴレット』、バイエルン州立歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場『セビリアの理髪師』、モネ劇場、ウクライナ国立歌劇場『運命の力』『ボリス・ゴドゥノフ』、ザンクト・ガレン歌劇場『スペードの女王』、ギリシャ国立歌劇場『清教徒』、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『マリア・ストゥアルダ』、バイエルン州立歌劇場、モルドバ国立オペラ・バレエ『エウゲニ・オネーギン』、ウィーン国立歌劇場、チューリヒ歌劇場、マドリッド・テアトロ・レアル『ロベルト・デヴェリュー』、ボローニャ、ジェノヴァで『シモン・ボッカネグラ』、ローマ歌劇場『ファルスタッフ』などを指揮。ポーランド国立歌劇場では『スペードの女王』『エウゲニ・オネーギン』『蝶々夫人』など多くの作品を指揮した。今後の予定に、テネリフェ・オペラ、ボローニャ歌劇場『ルクレツィア・ボルジア』、カルロ・フェリーチェ歌劇場『アンナ・ボレーナ』などがある。新国立劇場へは19/20シーズン開幕公演『エウゲニ・オネーギン』で初登場し、成熟した演奏を引き出し高く評価された。



演出: ヤニス・コックス

Production: Yannis KOKKOS

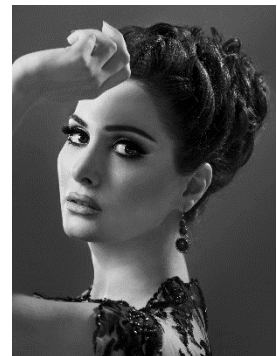
アテネ生まれ。ストラスブールの演劇高等学院で舞台美術を学ぶ。舞台美術家としてコメディ・フランセーズ、アヴィニオン演劇祭、ミラノ・ピッコロ座などでアントワーン・ヴィターズ演出の多くの作品を手掛けた。主なオペラの美術に、パリ・オペラ座『マクベス』、ミラノ・スカラ座『ペレアスとメリザンド』、ウィーン国立歌劇場『魔笛』、ボローニャ歌劇場『ドン・カルロ』、ジュネーヴ大劇場『エレクトラ』、バレエの美術・衣裳にノイマイヤー振付『シルヴィア』などがある。87年からは演出家としてボローニャ歌劇場、シャトレ座、オランジュ音楽祭、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、マリインスキー劇場などで『ボリス・ゴドゥノフ』『ファウストの劫罰』『ヴェニスに死す』『ジュリオ・チェーザレ』『カルメン』『ドン・ジョヴァンニ』『トリスタンとイゾルデ』『ペレアスとメリザンド』などを演出。スカラ座では98/99シーズン開幕公演『神々の黄昏』、02/03シーズン開幕公演『オーリッドのイフィジェニー』を演出した。最近ではギリシャ国立歌劇場17/18シーズン開幕公演『エレクトラ』、アテネとバーリで『さまよえるオランダ人』を演出。批評家協会賞、二度のモリエール賞、プラハ・カドリエンナーレ金賞、フランス芸術文化勲章など受賞多数。98年、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『皇帝ティトの慈悲』がオリヴィエ賞最優秀オペラ作品賞を、シャトレ座の『トロイ人』の演出で04年批評家賞を受賞。新国立劇場では19年オペラ研修所試演会『イオランタ』を演出した。



夜鳴きうぐいす: ハスミック・トロシヤン

Le Rossignol : Hasmik TOROSYAN

アルメニア、エレバン生まれ。当地で学び、数々のコンクールで優勝した後、2011年よりアルメニア国立アカデミーオペラ・バレエA.スベンディアリャン劇場で活躍している。グレイス・バンブリー、テレサ・ベルガンサ、ミレッラ・フレニ、フアン・ディエゴ・フローレスなどのマスタークラスに参加したのち、13年にはグラインドボーン音楽祭にツアー公演でデビュー、14年、15年にはロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演した。15年にはフランゲリス・オペラ、17年にはボローニャ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭、18年にはハンブルク州立歌劇場、シャンゼリゼ劇場、今年に入ってナポリ・サン・カルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場など次々と主要な劇場にデビューを果たしている。レパートリーは『イタリアのトルコ人』フィオリッラ、『新聞』リゼッテ、『夢遊病の女』アミーナ、『連隊の娘』マリー、『愛の妙薬』アディーナなどのベルカントの諸役を中心とし、他に『魔笛』夜の女王、『イドメネオ』イーリア、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどでも活躍している。新国立劇場へは、19年『ドン・パスクワレ』ノリーナでデビューし、超絶技巧と天性の表現力で話題をさらった。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

中国の皇帝／エフン＝ハキア：ニカラズ・ラグヴィラーヴァ

L'Empereur de Chine / Ibn-Hakia : Nikoloz LAGVILAVA

ジョージア出身。ジョージア国立歌劇場専属歌手を経て、17/18シーズンから18/19シーズンはエッセン・アールト劇場専属歌手を務める。エッセンでは『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『リゴレット』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョ、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアに出演した。これまでにリール歌劇場とディジョン歌劇場で『ナブッコ』タイトルロール、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル『スぺードの女王』トムスキ一、ノルウェー国立オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、バイルートのアル・ブスタン・フェスティバルで『オテロ』イアーゴ、ボリショイ劇場、スロヴァキア国立歌劇場、ジョージア国立歌劇場で『カルメン』エスカミーリョなどに出演。19/20シーズンはライン・ドイツ・オペラ『トスカ』スカルピア、ポーランド国立歌劇場『ナブッコ』タイトルロール、グラインドボーン音楽祭ツアー『リゴレット』タイトルロールに出演したほか、ベルリン・コーミッシェ・オーパーへ『リゴレット』タイトルロール、ハノーファー歌劇場へ『トスカ』スカルピアと『アイーダ』アモナズロでデビューを予定している。新国立劇場初登場。



ルネ：妻屋秀和

René : TSUMAYA Hidekazu

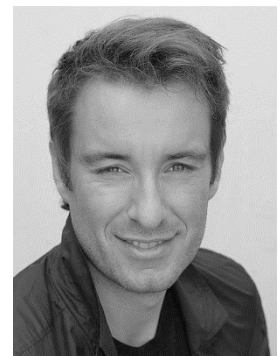
東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。94年～01年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマール・ドイツ国民劇場専属歌手。今までにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。国内でも多くの劇場で活躍。これまでに出演したオペラは60余作、演じた役は80役、公演数は900を超え、18年にはオペラ・デビュー30周年を迎えた。新国立劇場では『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ラインの黄金』ファールゾルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ローエングリン』ブラバントの貴族IV、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『カルメン』スニガ、『ルチア』ライモンド、『オテロ』ロドヴィーコ、『アイーダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムールなど数多く出演。二期会会員。



ロベルト：ユーリ・ユルチュク

Robert : Yuriy YURCHUK

キエフ出身。シカゴのデポール大学音楽学校で声楽を学ぶ。13年『ラ・ボエーム』マルチェッロでデビュー。14年から16年まで英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・プログラムに在籍。『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『ザ・ライトハウス』ブレイズ、『絹のはしご』ジェルマーノ、『トスカ』アンジェロッティ、『アドリアーナ・ルクヴール』ミシヨネ、『蝶々夫人』ヤマドリ、『ウェルテル』ジョアンなどに出演。その後も英国ロイヤルオペラで『ホフマン物語』シュレーミル、『椿姫』ドゥフォーール男爵、『ドン・カルロ』フランドルの使者、『トゥーランドット』官吏、『鼻』の諸役に出演。ウェックスフォード・オペラ・フェスティバル『マルゲリータ』ロドルフォ伯爵、ウクライナ国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、チューリヒ歌劇場『トゥーランドット』ピンなどにも出演。18/19シーズンはチューリヒ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロと『マノン』レスコー、ボジェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵に出演した。19/20シーズンはオペラ・ノースへ『ラ・ボエーム』マルチェッロでデビュー。サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバルへ『カルメン』エスカミーリョでデビュー予定。経済学、会計学の学位も持つ。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ヴォデモン伯爵: ヴィクトル・アンティペンコ

Le comte Vaudémont : Viktor ANTIPENKO

サンクトペテルブルク生まれ。グリーンカ・コーラル・カレッジ、サンクトペテルブルク音楽院、フィラデルフィア声楽アカデミーで学ぶ。フィラデルフィアで『外套』ルイーダ、『オペルト』リッカルドに、アレントウンで『カルメン』ドン・ホセ、リヨン歌劇場『マクベス』マルコムなどに出演してキャリアがスタート。これまでに、ボリショイ劇場、オビエド・オペラ、バーデン州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、サンパウロ・テアトロ・ムニシパルなどで『カルメン』ドン・ホセ、『ローエングリン』タイトルロール、『蝶々夫人』ピンカートン、『パルジファル』タイトルロール、『ボリス・ゴドゥノフ』ドミトリー、『スペードの女王』ヘルマン、『イオランタ』ヴォデモン伯爵などに出演。最近では、インスブルック歌劇場『ラ・ジョコンダ』エンツォ、『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノ、ハワイ・オペラ『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、ケムニッツ歌劇場『パルジファル』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムント、『フィデリオ』フロレスタンなどに出演した。19/20シーズンはケムニッツ歌劇場『フィデリオ』フロレスタン、ダラス・オペラ『金鶏』グヴィドン王子に出演しており、インスブルック歌劇場『サムソンとデリラ』サムソン、ケムニッツ歌劇場『ローエングリン』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムントにも出演予定。新国立劇場初登場。



イオランタ: エカテリーナ・シウリーナ

Iolanta : Ekaterina SIURINA

ロシア出身。モスクワのロシア舞台芸術アカデミーで学び、ノーヴァヤ・オペラでデビュー後、瞬く間に欧米の主要音楽祭や歌劇場に出演するようになり、03年にウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、06年にはメトロポリタン歌劇場へデビュー。これまでに、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、英国ロイヤルオペラ『魔笛』パミーナ、『リゴレット』ジルダ、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場で『愛の妙薬』アディーナ、パリ・オペラ座とミラノ・スカラ座の『フィガロの結婚』スザンナ、ザルツブルク音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、カナディアン・オペラ・カンパニー『椿姫』ヴィオレッタなどに出演。最近の出演には、バイエルン州立歌劇場『愛の妙薬』『ファルスタッフ』、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ピッツバーグ・オペラ『愛の妙薬』アディーナ、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ミミなどがある。19/20シーズンは、ウィーン国立歌劇場『椿姫』、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』、バイエルン州立歌劇場『カルメン』ミカエラなどに出演予定。新国立劇場初登場。



ルチア

Lucia di Lammermoor

●会員先行販売期間：2020年11/29(日)～12/9(水)

オペラパレス | 4回公演 | 全2部(3幕)＜イタリア語上演／日本語及び英語字幕付＞

●一般発売日：2020 年 12/13(日)

初演：1853 年 9 月 26 日／ナポリ・サン・カルロ歌劇場

作曲：ガエターノ・ドニゼッティ

原作：ウォルター・スコット

台本：サルヴァトーレ・カンマラーノ

プロダクションについて

ドニゼッティが作曲したベルカント・オペラの最高傑作のひとつ『ルチア』。スコットランドを舞台にルチアとその兄ランメルモールの領主エンリーコ、ルチアの恋人エドガルドが繰り広げる悲劇です。恋人の裏切りを告げられて政略結婚をさせられ、恋人に呪われ絶望のあまり狂気に陥ったヒロイン、ルチアが歌う「狂乱の場」は圧巻の見せ場。プリマ・ドンナが10分以上に渡って超絶技巧と演技力を駆使し、悲劇的な錯乱状態を表現する、最大の見せ場です。

モンテカルロ歌劇場との共同制作で2017年に新国立劇場で世界初演を迎えたジャン＝ルイ・グリンドア演出のプロダクションは、その後2019年6月にバレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿、11月にモンテカルロ歌劇場で上演されました。注目のルチア役には、17年『椿姫』でも圧倒的技術と表現力で観客を魅了した美貌のスター・ソプラノ、イリーナ・ルングを迎えます。エドガルドにベルカントの人気テノール、ブラウンリー、エンリーコに『ファルスタッフ』フォードで抜群の演技力と安定の歌唱を見せたオリヴィエーリが出演。指揮には世界の歌劇場で話題をさらう女性指揮者スカップッチが、いよいよ新国立劇場デビューを飾ります。



2017 年公演より

あらすじ

【第1部】17世紀スコットランドのレイヴンスウッド城。エンリーコ・アシュトン卿はレイヴンスウッド家を倒したが、家をさらに安泰させるには妹ルチアの政略結婚しかないと目論んでいる。ところが家臣ノルマンノによれば、ルチアは宿敵レイヴンスウッド家のエドガルドと愛し合っているという。エンリーコは妹の道ならぬ恋に怒る。エドガルドとの愛だけが生きる希望であるルチアは、庭園の泉で彼を待っていた。やってきたエドガルドは、フランスへ発たねばならないので、その前にエンリーコと和解して二人の愛を認めてもらおう、と語るが、ルチアは時期尚早だと諭す。エドガルドは結婚を誓ってルチアの指に指輪をはめる。

【第2部第1幕】政略結婚の準備が進んでいたが、ルチアは、自分はすでに他の人と結婚の誓いを立てた、と訴える。そんな妹にエンリーコは、偽の手紙を渡す。エドガルドの心変わりを伝える内容に動揺したあまり、ルチアは結婚を承諾。大広間でアルトゥーロ・バックロウ卿との婚礼の儀式が行われ、ルチアは結婚契約書にサインをする。そこにエドガルドが帰還。結婚契約書を見て愕然とし、指環を外してルチアを呪う。

【第2部第2幕】エドガルドの住む塔にやってきたとエンリーコ。二人は明朝、決闘することを約束する。婚礼の宴が続くレイヴンスウッド城の大広間に、血まみれのルチアが現れる。悲しみのあまり正気を失ったルチアは、寝室で夫を刺し殺してしまったのだ。ルチアは幻のエドガルドに「あなたを愛しています」と告げた後、息を引き取る。決闘の場であるレイヴンスウッド家の墓地で待つエドガルドの前に、ルチアの葬列がやってくる。ルチアの死を知り絶望したエドガルドは、その後を追うのだった。

ガエターノ・ドニゼッティ

ルチア

Gaetano DONIZETTI / Lucia di Lammermoor

全2部(3幕)〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	スぺランツァ・スカッブッチ
Conductor	Speranza SCAPPUCCI
演出	ジャン＝ルイ・グリンダ
Production	Jean-Louis GRINDA
美術	リュディ・サブーンギ
Set Design	Rudy SABOUNGHI
衣裳	ヨルゲ・ヤーラ
Costume Design	Jorge JARA
照明	ローラン・カスタン
Lighting Design	Laurent CASTAINGT
ルチア	イリーナ・ルング
Lucia	Irina LUNGU
エドガルド	ローレンス・ブラウンリー
Edgardo	Lawrence BROWNLIE
エンリーコ	マッティア・オリヴィエリ
Enrico	Mattia OLIVIERI
ライモンド	伊藤貴之
Raimondo	ITO Takayuki
アリーサ	小林由佳
Alisa	KOBAYASHI Yuka
ノルマンノ	菅野 敦
Normanno	KANNO Atsushi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

共同制作：モンテカルロ歌劇場

Co-production with Opera de Monte-Carlo

2021 年	4 月	18 日(日)14:00	21 日(水)14:00
		23 日(金)18:30	25 日(日)14:00

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

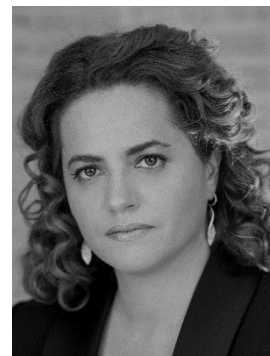
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: スペランツァ・スカップッチ

Conductor: Speranza SCAPPUCCI

イタリア生まれ。ジュリアード音楽院、サンタ・チェチーリア音楽院卒業。17年よりベルギー王立ワロニー歌劇場音楽監督。ウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場、チューリヒ歌劇場などで活躍。最近の主な活躍に、ローマ歌劇場『夢遊病の女』、トリノ王立歌劇場『フィガロの結婚』『チェネレントラ』、リセウ大劇場『アッティラ』、ロサンゼルス・オペラ『ラ・ボエーム』、サンタフェ・オペラ『連隊の娘』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『イタリアのトルコ人』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『エルサレム』『マノン・レスコー』『カルメン』など。チューリヒ歌劇場には『連隊の娘』でデビュー。ウィーン国立歌劇場『ドン・パスクワレ』で大成功を収める。昨シーズンはチューリヒ歌劇場『ラ・ボエーム』、ウィーン国立歌劇場『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『チェネレントラ』、シャンゼリゼ劇場『マリア・ストゥアルダ』、ワシントン・ナショナル・オペラ『トスカ』、ワロニー歌劇場『アイダ』『清教徒』を指揮し、ザクセン州立歌劇場に『トスカ』で待望のデビュー。19/20シーズンはワロニー歌劇場で『蝶々夫人』『チェネレントラ』を指揮したほか、同劇場『夢遊病の女』、ウィーン国立歌劇場『フィガロの結婚』『蝶々夫人』に登場予定。さらにカナディアン・オペラ・カンパニーへ『セビリアの理髪師』で、パリ・オペラ座へ『リゴレット』でデビュー予定である。東京・春・音楽祭『三部作』（演奏会形式）も指揮する予定。新国立劇場初登場。



演出: ジャン＝ルイ・グリンダ

Production: Jean-Louis GRINDA

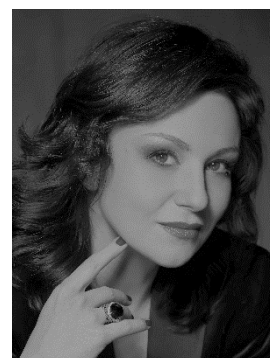
モナコ生まれ。2007年からモンテカルロ歌劇場総監督。16年からはオランジュ音楽祭総監督も務める。1996年から2007年までベルギー・ワロニー王立歌劇場の総監督を務め、折衷的かつ独創的なレパートリーを確立した。自身もワロニー王立歌劇場で03年から04年にワーグナー『ニーベルングの指環』4部作、05年にレオンカヴァッロ『道化師』、さらにミュージカルでもモーリー・イエストン『タイタニック』、ジュリー・スタイン『シュガー』などを演出している。またフランスを中心に海外の劇場でも活躍。イスラエル・オペラ、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、テアトロ・ムニシパルなどで演出している。05年に上演した子供向けミュージカル『ソル・アン・シルク』は解りやすく様々な要素を取り入れた演出で10万人を超える観客が観劇している。また、パリのポルト・サン＝マルタン劇場で上演したミュージカル『雨に唄えば』は01年の最優秀ミュージカル作品としてモリエール賞を受賞している。モンテカルロ歌劇場では『魔笛』『ラ・ペリコール』『こうもり』『ドン・ジョヴァンニ』『ホフマン物語』『ファルスタッフ』『リゴレット』『メフィストフェレ』『子供と魔法』『ナヴァラの娘』『ジョコンダ』『トスカ』『ロメオとジュリエット』『椿姫』『タンホイザー』などを演出している。



ルチア: イリーナ・ルング

Lucia : Irina LUNGU

ロシア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー在籍中にムーティによりスカラ座2003/04シーズンオープニング『モイーズとファラオン』アナイ役に抜擢され、同劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールなどに出演。スカラ座での『椿姫』ヴィオレッタは07年にデビュー後、08年、13年にも出演。パルマ王立歌劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場などに、『椿姫』ヴィオレッタ、『愛の妙薬』アディーナ、『リゴレット』ジルダ、『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどで出演。最近では、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』ジルダ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、マドリッド・テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場で『椿姫』、バイエルン州立歌劇場『トゥーランドット』リュー、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ムゼッタ、パリ・オペラ座とローマ歌劇場で『リゴレット』ジルダ、スカラ座で『ファルスタッフ』ナンネッタ、ボローニャ歌劇場、ヴェローナ歌劇場で『ルチア』などに出演している。新国立劇場では17年『椿姫』に出演した。

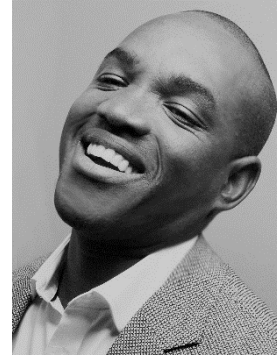


主要キャスト・スタッフ プロフィール

エドガルド・ローレンス・ブラウンリー

Edgardo : Lawrence BROWNLIE

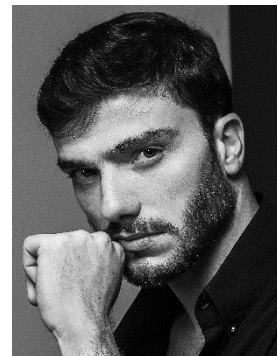
アメリカ出身。各紙でベルカントの国際的スターと称賛される若手テノール。2001年メトロポリタン歌劇場ナショナル・カウンスル・オーディション優勝。ベルリン・フィル、フィラデルフィア管、シカゴ響、ニューヨーク・フィルなど著名オーケストラの多くと共演し、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、マドリッド・テアトロ・レアルなどの一流歌劇場へ出演。昨シーズンはパリ・オペラ座『ドン・パスクワレ』エルネスト、『チェネレントラ』ドン・ラミーロ、チューリヒ歌劇場『オリバー伯爵』タイトルロール、『夢遊病の女』エルヴィーノ、ベルリン・ドイツ・オペラ『無遊病の女』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『清教徒』アルトゥーロ、ヒューストン・グランド・オペラ『真珠採り』ナディール、シアトル交響楽団とのツアーなどに出演した。19/20シーズンはシカゴ・リリック・オペラで得意の『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、オランダ国立オペラ『チェネレントラ』ドン・ラミーロに出演。ヒューストン・グランド・オペラで『ラ・ファヴォリータ』フェルランドにロールデビュー、ダラス・オペラへ『セビリアの理髪師』でデビュー予定。サルサダンサーでもあり、写真家でもあり、大のフットボールファンでもある。新国立劇場には06年『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵以来の出演となる。



エンリーコ・マッティア・オリヴィエーリ

Enrico : Mattia OLIVIERI

イタリア生まれ。ボローニャのマルティーニ音楽院で学び、ボローニャ歌劇場オペラスタジオに入る。08年にボローニャ歌劇場でデビュー後、ロッシェニ・オペラ・フェスティバルアカデミー、ミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外音楽祭、トリエステ・ヴェルディ劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ブレゲンツ音楽祭、ヴァレンシア歌劇場、マルティーナ・フランカ音楽祭、サンパウロ歌劇場などに次々と登場している。レパートリーには『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ショナール、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『カルメン』エスカミーリョ、『セビリアの理髪師』フィガロがある。最近ではバイエルン州立歌劇場『トゥーランドット』ピン、フィレンツェ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、オランダ国立オペラ『道化師』シルヴィオなどに出演。今後の予定に、スカラ座で『ロメオとジュリエット』メルキューシオと『イタリアのトルコ人』プロスドーチモ、バイエルン州立歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレのほか、ヒューストン・オペラでのアメリカデビュー、グラインドボーン音楽祭などの予定がある。新国立劇場では18年『ファルスタッフ』フォードに出演、抜群の表現力で観客を魅了した。



ドン・カルロ

Don Carlo

●会員先行販売期間：2021年1/16(土)～1/26(火)

オペラパレス | 4回公演 | 全4幕＜イタリア語上演／日本語及び英語字幕付＞

●一般発売日：2021 年 1/30(土)

初演：1867 年 3 月 11 日／パリ・オペラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：フリードリヒ・フォン・シラー「ドン・カルロス」

台本：ジョゼフ・メリ、カミーユ・デュ・ロクル／アキッレ・デ・ラウジェレス、アンジェロ・ザナルディーニ

プロダクションについて

ヴェルディ円熟期の傑作で、王子カルロと王妃エリザベッタの許されざる恋、カルロと父王フィリッポ二世の相克、嫉妬と裏切り、友情などを重厚な音楽で描いた壮大な歴史劇。カルロとロドリゴの友情の二重唱や、エリザベッタとカルロの激しい二重唱など聴きごたえのある重唱が続き、エボリ公女の「ヴェールの歌」「むごい運命よ」、国王の悲痛なアリア「ひとり寂しく眠ろう」、エリザベッタの「世の空しさを知る方よ」など有名なアリアも目白押しです。マルコ・アルトゥーロ・マレリ演出の舞台では、十字架と牢獄を思わせる壁に囲まれた空間が象徴的に使われ、強大な権威のもとで逃れようのない運命のドラマが描かれます。

国内でも熱狂的支持を受ける名匠カリニャーニの指揮、タイトルロールに輝かしい声で世界を席巻するテノール歌手ガンチ、父フィリッポ二世に世界最人気のバス、ペルトウージ、ロドリゴには『紫苑物語』に主演し観客を圧倒した高田智宏、エリザベッタにはマリーナ・コスタ＝ジャクソン、エボリ公女にはドラマティックな声とカリスマ性で世界を魅了するアンナ・マリア・キウリという最高の布陣で上演します。



2014 年公演より

あらすじ

【第1幕】16世紀中頃。スペイン王子ドン・カルロは、フランス王女エリザベッタと婚約し、愛し合っていたが、彼女はカルロの父スペイン王フィリッポ二世へ嫁ぐことに。絶望に沈むカルロに、親友のポーザ侯爵ロドリゴは、圧政からの解放を望むフランドルの民衆を救うよう進言する。カルロはロドリゴのはからいでエリザベッタと会い、フランドル行きの許しをもらえるよう父に口添えしてほしい、と彼女に頼む。想いが溢れカルロはエリザベッタを抱きしめるが、彼女は腕をほどく。

【第2幕】己の美貌に絶対の自信を持つ女官エボリ公女はカルロを愛しているが、カルロに人違いで愛を告白され、彼がエリザベッタを愛していることを知り、怒って復讐を誓う。広場で異端者の火刑が始まろうというとき、フランドルの使者を連れたカルロが現れ、王にフランドルの現状を訴える。拒絶する王に向かいカルロが剣を抜いたため、反逆のかどで投獄される。

【第3幕】妻に愛されない孤独に打ちひしがれるフィリッポ二世。そこに来た宗教裁判長に、カルロとフランドルへの対応について意見を求めるが、宗教裁判長はロドリゴこそが脅威だと告げる。エボリの策略で、エリザベッタのカルロへの思いの証拠がフィリッポ二世の手に渡る。王がエリザベッタを罵倒するのを見たエボリは己の行動を激しく悔い、王との愛人関係をエリザベッタに告白する。ロドリゴは、フランドルを扇動した罪をすべて負って逃げる、とカルロに別れを告げるが、王の部下によって暗殺される。

【第4幕】サン・ジュスト修道院。フランドルへ発つカルロは、天上での再会を誓ってエリザベッタと別れる。フィリッポ二世と宗教裁判長はカルロを捕らえようとするが、先帝カルロ五世の亡霊がカルロを墓に引き入れる。

ジュゼッペ・ヴェルディ

ドン・カルロ

Giuseppe Verdi / Don Carlo

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	パオロ・カリニャーニ
Conductor	Paolo CARIGNANI
演出・美術	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ
Production and Set Design	Marco Arturo MARELLI
衣裳	ダグマー・ニーファイント＝マレツリ
Costume Design	Dagmar NIEFIND-MARELLI
照明	八木麻紀
Lighting Design	YAGI Maki
フィリッポ二世	ミケーレ・ペルトウージ
Filippo II	Michele PERTUSI
ドン・カルロ	ルチアーノ・ガンチ
Don Carlo	Luciano GANCI
ロドリゴ	高田智宏
Rodrigo	TAKADA Tomohiro
エリザベッタ	マリーナ・コスタ＝ジャクソン
Elisabetta di Valois	Marina COSTA-JACKSON
エボリ公女	アンナ・マリア・キウリ
La Principessa d'Eboli	Anna Maria CHIURI
宗教裁判長	マルコ・スポッティ
Il Grande Inquisitore	Marco SPOTTI
修道士	大塚博章
Un frate	OTSUKA Hiroaki
レルマ伯爵／王室の布告者	城 宏憲
Il Conte di Lerma/Un araldo reale	JO Hironori
天よりの声	光岡暁恵
Una voce dal cielo	MITSUOKA Akie
ほか	
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2021 年	5 月	20 日(木)18:30	23 日(日)14:00
		26 日(水)14:00	29 日(土)14:00

【チケット料金】 S:24,200円 ・ A:19,800円 ・ B:13,200円 ・ C:7,700円 ・ D:4,400円

【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:パオロ・カリニャーニ

Conductor: Paolo CARIGNANI

イタリア・ミラノ生まれ。ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院で作曲、オルガン、ピアノを学ぶ。イタリアをはじめウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座など世界各地で活躍。1999年から2008年までフランクフルト歌劇場の音楽総監督およびフランクフルト・ムゼウム管弦楽団の音楽監督を務めた。コンサートでは、ミュンヘン・フィル、ウィーン放送響、読売日本交響楽団などに客演しており、来日も多い。最近ではミラノ・スカラ座へ『アリババと40人の盗賊』でデビューしたほか、ボリショイ劇場『仮面舞踏会』、バイエルン州立歌劇場『シチリアの晩鐘』、ウィーン国立歌劇場『ナブッコ』『シモン・ボッカネグラ』、モネ劇場『ラ・ジョコンダ』、ハンブルク州立歌劇場『ナブッコ』、カナディアン・オペラ・カンパニー『ラ・ボエーム』、フランダース・オペラ『マクベス』を指揮。オペラ・オーストラリアに『ロベルト・デヴェリュー』でデビュー予定。新国立劇場では13年『ナブッコ』、17年『オテロ』、18年『アイダ』を指揮したほか、20年1月には『ラ・ボエーム』で再登場予定である。



演出・美術:マルコ・アルトゥーロ・マレッリ

Production and Set Design: Marco Arturo MARELLI

スイス・チューリヒ生まれ。生地で学んだ後、ウィーン、ザルツブルク、ベルリンなどでキャリアを重ね、ウィーン・フォルクスオーパー『魔笛』で演出家デビュー。以来、ハンブルク州立歌劇場『ファルスタッフ』『ドン・ジョヴァンニ』、ウィーン国立歌劇場『無口な女』『夢遊病の女』、ザクセン州立歌劇場『トリスタンとイゾルデ』『カプリッチョ』などヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。バロック・オペラから現代作品まで多彩な作品を取り上げており、ニコラウス・アーノンクール、ロジャー・ノリントンなど著名な指揮者から高く評価されている。新国立劇場では2005年『フィデリオ』、06年『ドン・カルロ』を演出した。



フィリッポ二世:ミケーレ・ペルトウージ

Filippo II: Michele PERTUSI

パルマ生まれ。世界の重要歌劇場で活躍し数々の賞に輝くバス歌手。1998年からミラノ・スカラ座に定期的に登場し、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『イタリアのトルコ人』『ドン・カルロ』などに出演。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには92年に『セミラーミデ』でデビュー後、『モーゼとファラオ』『マホメットII世』『ウィリアム・テル』『泥棒かささぎ』などに出演し、ロッシーニ・ドーロ賞も受賞。近年は『アッティラ』、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『第一次十字軍のロンバルディア人』バカーノ、『リゴレット』スparaフチーレ、『シモン・ボッカネグラ』フィエスコなどヴェルディで高く評価され、スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、ウィーン国立歌劇場などで活躍。最近ではマドリード・テアトロ・レアル『ドン・カルロ』、スカラ座『群盗』、パリ・オペラ座、モネ劇場『ドン・パスクワール』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『マクベス』『アッティラ』『ナブッコ』、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『セビリアの理髪師』『セミラーミデ』、ローマ歌劇場『シチリアの晩鐘』などに出演した。今後の予定に、ウィーン国立歌劇場『チェネレントラ』、メトロポリタン歌劇場『マリア・ストゥアルダ』、トリノ王立歌劇場『シモン・ボッカネグラ』などがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドン・カルロ:ルチアーノ・ガンチ

Don Carlo : Luciano GANCI

ローマ生まれ。2001年ドミンゴの「オペラリア」コンクール入賞、同年『ジャンニ・スキッキ』でデビュー。『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥとプッチーニの諸役を歌い、12年にザルツブルク州立劇場『椿姫』で国外デビュー。フィレンツェ歌劇場、サレルノ・ヴェルディ劇場『椿姫』、トリエステ・ヴェルディ歌劇場『友人フリッツ』、北京国家大劇院、ラヴェンナ音楽祭、ピアチェンツァ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』に出演。最近では、ミラノ・スカラ座『フランチエスカ・ダ・リミニ』マラテステイーノ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ルチア』エドガルド、トリエステ、バーリで『椿姫』アルフレード、ヴェローナ音楽祭、フィレンツェ歌劇場『カルメン』ドン・ホセ、サン・カルロ歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、クレモナ、ベルガモなどで『トスカ』カヴァラドッシ、モデナ、レッジョ＝エミリアなどで『運命の力』ドン・アルヴァーロ、ニース・オペラ『アンドレア・シェニエ』タイトルロールなどに出演している。今後の予定に、リセウ大劇場『アイーダ』ラダメス、ボローニャ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、サン・カルロ歌劇場『カルメン』ドン・ホセなどがある。新国立劇場初登場。



ロドリゴ:高田智宏

Rodrigo : TAKADA Tomohiro

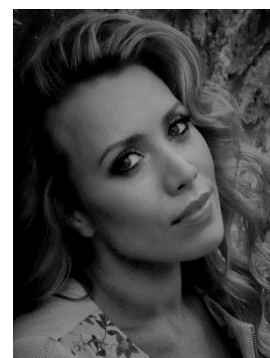
国立音楽大学音楽学部声楽科卒業、二期会オペラ研修所を経て、国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻（ドイツ歌曲）を首席で修了。2005年第4回静岡国際オペラコンクール「三浦環特別賞」を受賞。06年第4回長久手国際オペラ声楽コンクール優勝。03年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトIV～VIに参加し、ロッシニ『セビリアの理髪師』フィガロのカヴァーキャストなどを務める。07年9月よりキール歌劇場専属歌手として『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ他、多数の主演を務め主に海外を拠点に活躍中。近年、国内でも佐渡裕プロデュースオペラに主演で多数出演、15年の『椿姫』ジェルモン役では絶賛を博す。これまでにウーヴェ・ハイルマン、秋葉京子、野崎靖智の各氏に師事。17年12月、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州（キール市）から宮廷歌手の称号を授与された。新国立劇場では19年『紫苑物語』宗頼役で初登場、圧倒的な歌唱と存在感で国内外のメディアから高く評価された。



エリザベッタ:マリーナ・コスタ＝ジャクソン

Elisabetta di Valois : Marina COSTA-JACKSON

アメリカに生まれ、イタリアで育つ。近年ではサヴォンリナ・オペラ・フェスティバル、ボリショイ劇場で『オテロ』デズデーモナ、ケルン歌劇場、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『ラ・ボエーム』ミミに出演。パリ・オペラ座へは『カルメン』ミカエラでデビュー。ダラス・オペラへ『ノルマ』アダルジーザでデビューし、17年のダラス・デビュー・アーティスト賞を受賞。ミシガン・オペラ『ラ・ボエーム』、シアトル・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、ケルン歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『椿姫』、ユタ・オペラ『道化師』ネッダに出演。19年夏にはグレンジ・パーク・オペラ『ドン・カルロ』エリザベッタに出演した。19/20シーズンはロサンゼルス・オペラ『ラ・ボエーム』ミミで開け、シアトル・オペラで『エウゲニ・オネーギン』タチアーナにロールデビュー。ワシントン・コンサート・オペラで『シモン・ボッカネグラ』アメーリア、パリ・オペラ座へ『ラ・ボエーム』ミミでの再登場などが予定されている。姉のジンジャー、妹のミリアムもオペラ歌手として活躍している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

エボリ公女: アンナ・マリア・キウリ

La Principessa d'Eboli : Anna Maria CHIURI

パルマのボーイト音楽院を卒業し、フランコ・コレリのもとで声楽の技術を完成させた。イタリア及びヨーロッパの主要劇場で活躍する、現在最も重要なメゾソプラノのひとり。レパートリーは幅広く、パレルモ・マッシモ劇場『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、トリノ王立歌劇場、ミラノ・スカラ座『ドン・カルロ』エボリ公女、『エレクトラ』クリテムネストラ、ボルツァーノ、モデナなどで『サロメ』ヘロディアス、『アイダ』アムネリス、ワロニー歌劇場『仮面舞踏会』ウルリカ、フェニーチェ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』、フィレンツェ歌劇場『ばらの騎士』アンニーナ、トリノ王立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』、マチュラータ音楽祭『運命の力』などに出演。最近では、スカラ座、フィレンツェ歌劇場『三部作』、ザルツブルク音楽祭の『サロメ』新演出のヘロディアス、ヴェローナ音楽祭『アイダ』アムネリスに出演。今後の予定にはスカラ座『サロメ』ヘロディアス、ノーノ作曲『イントレランツァ1960』、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『アイダ』、ピアチェンツァで『ラ・ファヴォリータ』などがある。新国立劇場には2002年『カルメン』『イル・トロヴァトーレ』以来の登場。



宗教裁判長: マルコ・スポッティ

Il Grande Inquisitore : Marco SPOTTI

パルマ生まれ。生地のボーイト音楽院修了後、パルマ王立歌劇場『仮面舞踏会』でデビュー。その後一流歌劇場への出演が続く、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、バイエルン州立歌劇場、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、メトロポリタン歌劇場、リセウ大劇場、ジュネーヴ大劇場、パルマ王立劇場、トリノ王立劇場、ボローニャ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどで『アイダ』ランフィスとエジプト国王、『トゥーランドット』ティムール、『ギョーム・テル』ワルター、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ8世、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『セビリアの理髪師』バジリオ、『イル・トロヴァトーレ』フェルランドなどに出演。最近では、ボローニャ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、ヴァレンシア・ソフィア王妃芸術宮殿『リゴレット』スパラフチーレ、ベルギー王立ワロニー歌劇場『清教徒』ジョルジオ、リセウ大劇場『ルイザ・ミラー』ヴルム、フェニーチェ歌劇場『ドン・カルロ』宗教裁判長などに出演。今後の予定に、ローマ歌劇場『トゥーランドット』ティムール、『ルイザ・ミラー』ヴルム、ザクセン州立歌劇場『セビリアの理髪師』バジリオ、ハンブルク州立歌劇場『リゴレット』スパラフチーレなどがある。新国立劇場には19/20シーズン『セビリアの理髪師』バジリオに出演予定。



カルメン

Carmen

●会員先行販売期間：2021年2/14(日)～2/23(火・祝)

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕(フランス語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2021 年 2/27(土)

初演：1875年3月3日/パリ・オペラ＝コミック座

作曲：ジョルジュ・ビゼー

原作：プロスペル・メリメ

台本：アンリ・メイヤック/リュドヴィク・アレヴィ

プロダクションについて

世界中で人気オペラの筆頭に挙がる『カルメン』。活気あふれる前奏曲、カルメンの登場で歌われる「ハバネラ」、ホセを誘惑する「セギディーリャ」、フラメンコを踊りながら歌われるスペクタクルな「ジプシーの歌」、華やかな「闘牛士の歌」など誰しもおなじみの名曲にのせ、自由奔放な女カルメンと一途な男ドン・ホセによる愛と死の運命のドラマが繰り広げられます。

今回の新制作ではスペイン・バルセロナ出身の演出家アレックス・オリエに演出を依頼、オリエならではの読み込みと舞台展開による新演出『カルメン』を世界へ発信します。オリエの音楽的感性、大胆な発想と求心力、そしてダイナミックな空間演出は、19年に新制作し国内各地で上演された『トゥーランドット』で、日本でも証明済み。国内外の注目が集まることは必至です。

指揮には大野和士オペラ芸術監督があたり、オリエとタッグを組んで、劇場を情熱の渦に巻き込みます。カルメン役には演技力に定評のあるフランスのメゾ、ドゥストラック、ホセには新進テノールのアガザニアンが登場します。

あらすじ

【第1幕】セビリアのタバコ工場前の広場には女工目当てに男たちが集まっている。彼らの一番人気はカルメン。ロマならではの奔放さで男を魅了するが、衛兵の伍長ドン・ホセは彼女に関心がない。そんなホセをからかってカルメンは花を投げつける。呆然とするホセのもとに、母の手紙を持って故郷ナバラから許婚のミカエラが来る。懐かしさに浸っていると、工場内で喧嘩が勃発。騒ぎの張本人カルメンは連行されるが、脱走しようとホセを誘惑。「リリャス・パスティアの酒場で待っている」との言葉に負けたホセは縄を解き、結果、脱走補助の罪で捕まってしまう。

【第2幕】リリャス・パスティアの酒場に人気闘牛士エスカミーリョが来てカルメンを口説くが、彼女は相手にしない。釈放されたホセをカルメンが踊りでもてなしていると、帰郷の時刻に。カルメンを愛していても帰ろうとする真面目なホセだが、鉢合わせした上官スニガに刃向かってしまう。スニガはカルメンの密輸団仲間ダンカイロらに捕らえられ、ホセは密輸団に加わる決意をする。

【第3幕】人気のない岩山にいる密輸団。カルメンはすでにほかの男に心移りしているようで、ホセにつれない態度を取る。女たちはカルタ占いに興じるが、カルメンが占うと、自分もホセも死ぬという結果に、愕然とする。そんなとき、ホセの母が危篤だとミカエラが知らせにやってくる。ホセは、ミカエラとともに故郷に帰る。エスカミーリョの恋人になったカルメンは、試合を見に闘牛場へ。ホセも故郷から戻り、彼女を探していた。闘牛場の外で対峙する2人。やり直そうと迫るホセに、カルメンは、自由に生まれて自由に死ぬと言い放ち、ホセからもらった指輪を投げつける。思い余ったホセはカルメンを刺す。ホセは、倒れたカルメンの上に泣き崩れる。

ジョルジュ・ビゼー

カルメン

Georges BIZET / Carmen

全3幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出	アレックス・オリエ
Production	Alex OLLÉ
美術	アルフォンス・フローレス
Set Design	Alfons FLORES
衣裳	リュック・カステイス
Costume Design	Lluc CASTELLS
照明	ウルス・シェーネバウム
Lighting Design	Urs SCHÖNEBAUM

カルメン	ステファニー・ドゥストラック
Carmen	Stéphanie D'OUSTRAC
ドン・ホセ	ミグラン・アガザニアン
Don José	Migran AGADZHANYAN
エスカミーリョ	アレクサンドル・ドゥハメル
Escamillo	Alexandre DUHAMEL
ミカエラ	砂川涼子
Micaëla	SUNAKAWA Ryoko
スニガ	妻屋秀和
Zuniga	TSUMAYA Hidekazu
モラレス	吉川健一
Moralès	YOSHIKAWA Kenichi
ダンカイロ	町 英和
Le Dancaïre	MACHI Hidekazu
レメンダード	糸賀修平
Le Remendado	ITOGA Shuhei
フラスキータ	森谷真理
Frasquita	MORIYA Mari
メルセデス	金子美香
Mercédès	KANEKO Mika

ほか

合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2021 年	7 月	3 日(土)14:00	6 日(火)18:30
		8 日(木)14:00	11 日(日)14:00
		17 日(土)14:00	19 日(月・祝)14:00

【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円

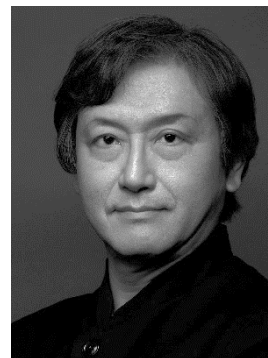
【会 場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor: ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラではミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年、リヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで最優秀オペラハウスを獲得。同年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨンを特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では、98年『魔笛』、10-11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮。20年6月には『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、8月に『Super Angels スーパーエンジェル』、20/21シーズンは『アルマゲドンの夢』も指揮する予定。



演出:アレックス・オリエ

Production: Àlex OLLÉ

バルセロナ生まれ。パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウスの6人の芸術監督の一人で、同カンパニーは世界的な評価を確立した。カルルス・パドリッサと共同演出したバルセロナ・オリンピック開会式をはじめとする大規模イベントや、演劇、映画と多くの分野で活動している。近年ではオペラの演出で特に活躍し、ザルツブルク音楽祭、ウィーン芸術週間、マドリッド・テアトロ・レアル、リセウ大劇場、パリ・オペラ座、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ルールトリエンナーレ、ネザーランド・オペラ、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、オーストラリア・オペラなど世界中で活躍、『魔笛』『ノルマ』『仮面舞踏会』『イル・トロヴァトーレ』『ファウストの劫罰』『トリスタンとイゾルデ』『さまよえるオランダ人』『ベレアスとメリザンド』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』『青い公の城』『消えた男の日記』『マハゴニー市の興亡』『火刑台上のジャンヌ・ダルク』など幅広い作品を手掛けている。新国立劇場では19年、東京文化会館共同制作『トゥーランドット』を演出した。



カルメン:ステファニー・ドゥストラック

Carmen : Stéphanie D'OUSTRAC

フランス出身。ウィリアム・クリスティに『テセウス』『ブシジェ』に抜擢され、『デイドとエネアス』『レ・バラダン』、シャンゼリゼ劇場『アルミード』、リヨン歌劇場『アルチャーナ』、グラインドボーン音楽祭『ジュリオ・チェーザレ』、モネ劇場『オルフェオとエウリディーチェ』などのバロック作品に出演。得意のフランス・オペラではリール歌劇場『カルメン』に主演し絶賛され、グラインドボーン音楽祭でも同役に出演。ローザンヌ歌劇場『ホフマン物語』ニクラウス/ミューズ、オペラ・コミックのシャブリエ『エトワール』ラズリ、グラインドボーン、ローマ歌劇場で『子どもと魔法』、アヴィニヨン歌劇場『カルメル会修道女の対話』マリー修道女長などにも出演。モーツァルトでは、パリ・オペラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭などで『皇帝ティトの慈悲』、パリ・オペラ座『コジ・ファン・トゥッテ』、オランダ国立オペラ『イドメネオ』などに出演。最近の主な出演に、ローザンヌ歌劇場『ウェルテル』シャルロット、ミラノ・スカラ座で『スペインの時』、ムジカエテルナ、ジェノヴァ、パリ・オペラ座の『皇帝ティトの慈悲』セスト、チューリヒ、ザルツブルク音楽祭で『ポッペアの戴冠』、エクサンプロヴァンス音楽祭、マドリッド・テアトロ・レアル、ダラス・オペラで『カルメン』タイトルロール、パリ・オペラ座の『ホフマン物語』、マルセイユ歌劇場『セビリアの理髪師』ロジーナなどがある。今後の予定に、ワロニー王立歌劇場『ミニヨン』、リセウ大劇場『皇帝ティトの慈悲』、パリ・オペラ座『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラなどがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドン・ホセ:ミグラン・アガザニアン

Don José : Migran AGADZHANYAN

ロシア出身。ロストフ音楽院などでピアノと指揮を学んだ後、サンタ・チェチーリア音楽院オペラスタジオで学ぶ。ロシア声楽コンクール、オブラストワコンクールなど多くのコンクールに優勝。オペラリアコンクールに入賞してドミンゴに招かれ、ロサンゼルス・オペラのヤングアーティストプログラムに参加。ピアニスト、作曲家、指揮者でもあり、サンクトペテルブルク・ユース・シンフォニー・オーケストラの設立者・首席指揮者。作曲に『ピアノとオーケストラのためのアルメニア風バラード』など。最近のオペラ出演にマリインスキー劇場『シチリアの晩鐘』アッリーゴ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、『イオランタ』ヴォデモン伯爵、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ヴェルサイユ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、マチュエラータ音楽祭『カルメン』ドン・ホセ、パルマ王立歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、リヨン歌劇場『チャロデイカ』ユーリー王子などがある。19/20シーズンはマリインスキー劇場で『ジャンニ・スキッキ』『イオランタ』『椿姫』『ドン・カルロ』に出演するほか、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、パリー・ペトルツェッリ劇場『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、ローマ歌劇場『カルメン』ドン・ホセなどに出演予定。新国立劇場初登場。



エスカミーリョ:アレクサンドル・ドゥハメル

Escamillo: Alexandre DUHAMEL

フランス出身。カルポーサークル賞、パリ・オペラ座協会賞などを受賞し、現在フランスの最注目歌手。パリ・オペラ座には『ジャンニ・スキッキ』でデビューし、『子供と魔法』『西部の娘』ジャック・ランス、『ドン・ジョヴァンニ』マゼットなどに出演。これまでに、ミラノ・スカラ座、ザルツブルク音楽祭、グラインドボーン音楽祭、リヨン歌劇場、ボルドー歌劇場、モンペリエ歌劇場、ニース歌劇場などに『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『真珠採り』スルガ、『サムソンとデリラ』大祭司、『シモン・ボッカネグラ』パオロ、『ウェルテル』アルベールなどで出演。最近では、シャンゼリゼ劇場『トリードのイフィジェニー』、マルセイユ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』、ニース歌劇場『真珠採り』、ボルドー歌劇場『マノン』レスコー、コンピエーヌ歌劇場では『カルメン』エスカミーリョなどに出演した。19/20シーズンはパリ・オペラ座『優雅なインドの国々』アルヴァールに出演したほか、ジュネーヴ大劇場『ユグノー教徒』ヌヴァール伯爵、ボルドー歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどに出演予定。新国立劇場初登場。



ミカエラ:砂川涼子

Micaëla : SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～04年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。05年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的にデビュー。藤原歌劇団『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カブレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。19年には藤原歌劇団『ラ・トラヴィアータ』ヴィオレッタ、日生劇場『トスカ』に出演。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、『魔笛』パミーナ、『ウェルテル』ソフィーなどに出演。18/19シーズンは『カルメン』ミカエラ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『トゥーランドット』に出演した。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



令和2年度公演 〈4演目12公演〉

2020年8月

2020 新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

Super Angels スーパーエンジェル

Super Angels | 渋谷慶一郎
2回公演

2020年7月

2020 新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020
(新国立劇場公演)

夕鶴

Yuzuru (The Twilight Heron) | 團 伊玖磨
6回公演

2020年10月

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020
(ロームシアター京都公演)

魔笛

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト
2回公演

2020年7月

2020 新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～
地域招聘オペラ公演 びわ湖ホール

竹取物語

Princess Kaguya | 沼尻竜典
2回公演

2020新国フェス ～とどけ！舞台の魔法～
子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

2020年 8/22～23
＜新制作 創作委嘱作品・世界初演＞
New Production
Commissioned Work,
World Premiere

Super Angels スーパーエンジェル

Super Angels

オペラパレス | 2 回公演 | 全 1 幕(日本語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2020年5/17(日)～5/27(水)

●一般発売日: 2020年 5/31(日)

企画監修: 大野和士
台本: 島田雅彦
作曲: 渋谷慶一郎

プロダクションについて

新国立劇場が2020年8月、日本の魅力を世界へ発信する絶好の機会としてお届けする特別企画。「科学技術」「共生」というテーマを織り込んだ新しい舞台作品を通じ、舞台芸術の可能性を広く世に問い、その魅力を国内外にアピールすべく、“子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ”を上演します。

新国立劇場オペラ芸術監督の大野和士が企画し、台本を作家の島田雅彦に、作曲を初音ミクのボーカロイドオペラ『THE END』やアンドロイド・オペラ『Scary Beauty』を手掛ける音楽家・渋谷慶一郎に委嘱。指揮は大野、演出は新国立劇場演劇芸術監督の小川絵梨子が務め、オペラの枠を超えたスケールのコラボレーションを行います。

この新作オペラ『Super Angels スーパーエンジェル』には人工生命搭載アンドロイド「オルタ3」が物語の核となる役で出演し、もう一方の核となる子供たちによる合唱と相互に関わり合いながら歌い、演じて、アンドロイドと子どもたちの交流のドラマを紡ぎます。子どもたちと共に、オペラ歌手と新国立劇場合唱団も出演。管弦楽は東京フィルハーモニー交響楽団が務めます。さらに、新国立劇場バレエ団も参加し、新国立劇場始まって以来のオペラ、舞踊、演劇全ジャンルのコラボレーションが実現します。

未来への共生のメッセージが込められた全く新しいオペラの誕生の瞬間に、どうぞご期待ください。

あらすじ

ある学園の卒業式。15歳になるとDNA鑑定による職能適性検査が行われ、統治、守護、知識、奉仕、そして異端という選別がなされる。卒業生たちはその結果に従ってナノチップを注射され、国家を管理するセントラルAIのマザーの管理下におかれる。落ちこぼれのアキラは「異端」と判定され、開拓地に送られることになっていた。そこではゴーレム3と呼ばれるヒューマノイド型AIが「異端」たちの生活の最適化をはかる教育者の役目を果たすことになっていた。アキラの大好きなエリカは「知識」の道を進む。二人は土偶と竹笛を交換し、再会を誓う。

ゴーレム3は、エリカに恋い焦がれ、雲や石にやるせない思いをぶつけるアキラから恋の切なさを感じ取っていた。ゴーレム3はマザーの指令を無視して異端者たちの脳にアクセスしていた。ヒトには、意識と無意識、二つの心がある。第二の心には欲望や祈り、愛や思いやり、複雑な喜怒哀楽が秘められている。第二の心をアルゴリズム化できれば、あらゆる夢を現実化できる。ゴーレム3はアキラの欲望を実現しようとしていた。心の傷とは？時間とは？記憶とは？死後の世界はあるのか？人を愛するというのはどういうことか？ゴーレム3はアキラと心の交流をしながら、脳のある部位で起きている量子の揺らぎを分析していた…。

子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ

渋谷慶一郎

Super Angels スーパーエンジェル

SHIBUYA Keiichiro / Super Angels

全1幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

企画監修・指揮 Project Supervision / Conductor	大野和士 ONO Kazushi
台本 Libretto by	島田雅彦 SHIMADA Masahiko
作曲 Music by	渋谷慶一郎 SHIBUYA Keiichiro
演出 Stage Director	小川絵梨子 OGAWA Eriko
総合舞台美術(装置・衣裳・照明・映像監督)・ Creative Art Director (Set, Costume, Lighting Design and Video Direction)	針生 康 HARIU Shizuka
映像 Video	ウィアードコア Weirdcore
振付 Choreographer	貝川鐵夫 KAIKAWA Tetsuo
舞踊監修 Choreographic Advisor	大原永子 OHARA Noriko
ゴーレム3 Golem 3	オルタ3 (Supported by mixi, Inc.) Alter 3 (Supported by mixi, Inc.)
アキラ Akira	藤木大地 FUJIKI Daichi
エリカ Erika	三宅理恵 MIYAKE Rie
ジョージ George	成田博之 NARITA Hiroyuki
ルイジ Luisi	小泉詠子 KOIZUMI Eiko
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
ダンサー Dancers	新国立劇場バレエ団 The National Ballet of Japan
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

ほか

2020 年 8 月 22 日(土)15:00 / 23 日(日)15:00

【チケット料金】 こども(4歳から小学生):2,200円 ・ 大人:3,300円

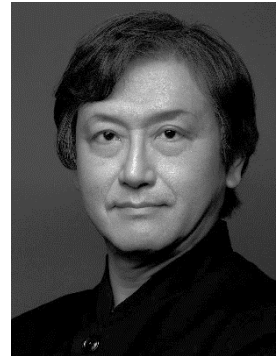
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

企画監修・指揮: 大野和士

Project Supervision / Conductor: ONO Kazushi

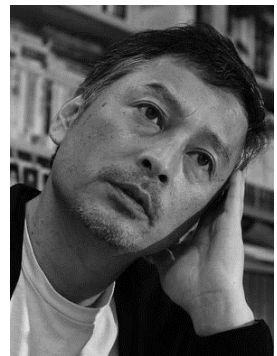
東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラではミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年、リヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで最優秀オペラハウスを獲得。同年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では、98年『魔笛』、10-11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』を指揮。20年6月には『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を、20/21シーズンには『アルマゲドンの夢』『カルメン』を指揮する予定。



台本: 島田雅彦

Libretto: SHIMADA Masahiko

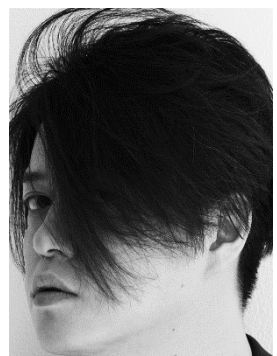
1984年東京外国語大学ロシア語学科卒。在学中の1983年『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。主な作品に『自由死刑』、『退魔姉妹』（伊藤整文学賞）、『徒然王子』、『悪貨』、『虚人の星』（毎日出版文化賞）、『カタストロフ・マニア』、『絶望キャラメル』ほか多数。『忠臣蔵』、『J r. バタフライ』のオペラ台本はじめ、多くの楽曲に詞を提供している。2011年より芥川賞選考委員。法政大学国際文化学部教授。



作曲: 渋谷慶一郎

Music : SHIBUYA Keiichiro

音楽家。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。2002年に音楽レーベルATAKを設立、国内外の先鋭的な電子音楽作品をリリースする。これまでに数多くの映画音楽やサウンドインスタレーションを発表。12年には、初音ミク主演による世界初の映像とコンピュータ音響による人間不在のボーカロイド・オペラ『THE END』をYCAMで発表。同作品はパリ・シヤトレ座での公演を皮切りに現在も世界中で公演が行われており現在も上演要請が絶えない。これまでにパレ・ド・トーキョーでアーティストの杉本博司、ロボット研究者の石黒浩と、パリ・オペラ座でエトワールのジェレミー・ベランガールとなど数多くのコラボレーションを発表。複雑系研究者の池上高志とは15年に及ぶノイズや立体音響による協働、開発を行なっている。現在は東京とパリを拠点に活動を展開している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

演出:小川絵梨子

Stage Director : OGAWA Eriko

2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。

10年『今は亡きヘンリー・モス』の翻訳で、第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞受賞。14年『ピロマン』『帰郷—The Homecoming』『OPUS／作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

最近の演出作品に『死と乙女』『熱帯樹』『出口なし』『The Beauty Queen of Leenane』『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』『CRIME OF THE HEART—心の罪—』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『ユビュ王』『夜想曲集』『RED』『スポークンの左手』など。新国立劇場では『タージマールの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首—幻に長崎を想う曲—』『星ノ数ホド』『OPUS／作品』の演出のほか、『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手がける。18年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

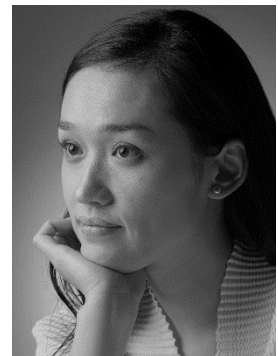


総合舞台美術:針生 康

Creative Art Director (Set, Costume, Lighting Design and Video Direction): HARIU Shizuka

英国舞台建築博士。東京理科大学大学院建築学修士課程修了。文化庁新進芸術家海外派遣制度・ポーラ美術財団の助成により、モネ歌劇場やローザスで舞台美術助手を務め、同時にロンドン芸術大学博士課程前期、リーズ・ベケット大学院にて博士号取得。欧州・日本を中心にダンス・バレエ・オペラなどの舞台美術、アートディレクション、空間デザインを手がける。主な作品にアクリム・カーン&シルヴィ・ギエム『聖なる怪物たち』、英国王立芸術院ロイヤルアカデミーの展示設計『Sencing Spaces』、マンチェスター・インターナショナル・フェスティバルのオノ・ヨーコ『BELLS FOR PEACE』のタワーデザイン等。昨夏サントリーホールサマーフェスティバルにて現代オペラ『リトゥン・オン・スキン』の映像を含む舞台総合美術を手がけ反響を得た。2017年『Solid Traces』で日本人舞台美術家として初のワールドステージデザイン銅賞受賞。19-20年には『Dystopian Dream』が15～19年の英国最優秀デザイン12選に選出され、プラハ・カドリエンナーレ2019に出展後、ヴィクトリア&アルバート博物館(V&A)で展示。新国立劇場ではJapon Dance Project『CLOUD/CROWD』(14年)、『MOVE/STILL』(16年)の美術・衣裳を担当。『CLOUD/CROWD』も12～15年の英国舞台美術最優秀展に選出され、プラハ・カドリエンナーレ2015で英国チーム特別賞受賞後、V&Aに展示された。

SHSH Architecture + Scenography を建築家萩原ボクダン新と共同代表。震災復興支援活動として『Invisible Needs of Life』プロジェクトをフランドルス建築家協会、復興シンポジウムをボザール建築家協会、英国王立建築家協会、在日日本大使館にて提案している。



映像:ウィアードコア

Video : Weirdcore

ロンドンを拠点に活動。その作品は、意識と視覚の境界を広げるデザインとアニメーションの経験の結果である。アーティストや音楽家の用いるメソッドで、アイディアに助言を与え視覚化し、様々な体裁、色、デザイン、メディアをユニークに融合させた独自のプロジェクトを創造する。エイフェックス・ツイン、M.I.A.、スクリレックス、マリー・サイラスといったミュージシャンやハイブ・ウィリアムズ、ソフィー・ミュラー、ダイアン・マルテルらの映像作家のような現代の最も刺激的なアーティストとコラボレートし、画期的なビデオ、インスタレーションなどを手がけている。ワープ・レコーズ、XLレコーディングス、ソニー、ニンジャ・チューン、ドミノ・レコーズなどの組織やレーベルにも独自のセンスや知識を提供し、ファッションや演劇、オペラなど様々な領域へダイナミックで流動的な活動を広げている。最近では、チーム・インバラの『Cause I'm a Man』のミュージックビデオのCG、制作中のM.I.A.のアルバムのビジュアルを手がける。高度に形成したエレメントを用いて、イメージの終結点へのディレクションの月並みな概念を打ち破り、2Dと3Dの間をシームレスに並行させ、ビデオや商業映像、ライブ映像、ファッションフィルムに斬新な感覚でアプローチする。その感性はラフで生で、最新でありながら常に有機的であり、決定的なエッジのある芸術的二極性の探求の実践たるテクノロジーに駆り立てられているのである。新国立劇場初登場。

主要キャスト・スタッフ プロフィール

振付: 貝川鐵夫

Choreographer : KAIKAWA Tetsuo

兵庫県出身。平櫛バレー姫路、潮田弘子バレー研究所を経て、ワガノワバレー学校に留学し、1998年卒業。99年モナコ・プリンセスグレース・アカデミーに留学。2000年新国立劇場バレー団に入団し、04年ソリスト、11年ファースト・ソリストに昇格。『白鳥の湖』『ドン・キホーテ』『シンデレラ』主役のほか、幅広い作品で重要な役柄を踊る。NBJコレオグラフィック・グループでは意欲的に作品を発表し、『フォリア』が16年「ニューイヤ・バレー」でも上演されるなど、振付家としての活躍も期待される。主な受賞歴に、96年こうべ全国洋舞コンクール・バレー男性ジュニアの部第2位、12年姫路市芸術文化奨励賞など。新国立劇場バレー団ファースト・ソリスト。



舞踊監修: 大原永子

Choreographic Advisor : OHARA Noriko

橘秋子、牧阿佐美、アレクサンドラ・ダニロワ、イゴール・シュベッツォフに師事。橘バレー学校を卒業後、橘バレー団を経て 1956年、牧阿佐美バレー団結成と同時に入団。62年に『白鳥の湖』の主役に抜擢され、以後同団のプリマ・バレリーナとして古典、創作を問わず数多くの作品に主演する。71年にアメリカに留学し、74年に渡英。ニュー・ロンドン・バレーからロンドン・フェスティバル・バレー、さらにスコティッシュ・バレーへと移籍。77年、スイスのバーゼル・バレーに一時在籍した後、78年に再びスコティッシュ・バレーに戻り、96年までプリンシパル・ダンサーとして活躍。72年舞踊批評家協会賞、82年芸術選奨文部大臣賞、91年服部智恵子賞を受賞。96年よりスコティッシュ・バレーでコーチを務める。97年には大英勲章（OBE）を日本人アーティストとして初めて授与された。2004年紫綬褒章受章。12年橘秋子賞特別賞受賞。14年に旭日小綬章を受章。17年第65回舞踊芸術賞受賞。1999年より新国立劇場バレー団のバレー・ミストレスを務め、2010年に同バレー団の監督補。14年9月新国立劇場舞踊芸術監督に就任。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

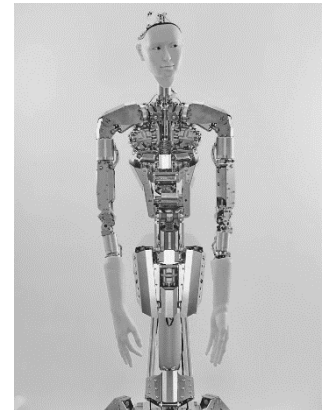
ゴレム3:オルタ3

Golem 3 :Alter 3

人間とのコミュニケーションの可能性を探るために開発された人工生命×アンドロイド「オルタ3」。コミュニケーション創出カンパニーであり、オルタ3のシミュレーターを提供した「ミクシィ」、世界的なアンドロイド研究のパイオニアである「大阪大学石黒研究室」、ALife(人工生命)研究のパイオニアである「東京大学池上研究室」、本プロジェクトの実証実験の場を提供する「ワーナーミュージック・ジャパン」によって2019年2月に共同研究プロジェクトとして発足。

オルタ3は、機械が露出したむき出しの体、性別や年齢を感じさせない顔といった特徴により、人の想像力を喚起し、これまでにない生命性を感じさせることを目指したアンドロイドロボットである。この研究の挑戦は、外界との相互作用により、ロボットが生命感を自ら獲得することができるかどうか、また、これを通じて、生命とは何かといった根源的な問いに答えることである。

プロジェクト発足以来、オルタ3のコラボレートメンバーとして、音楽家渋谷慶一郎氏による『Scary Beauty (スケアリー・ビューティ)』のドイツ公演、日本科学未来館キュレーター内田まほろ氏の企画によるロンドンでの展示、東京・六本木の森美術館の「未来と芸術展」に出展され、人間とアンドロイドによる新たなコミュニケーションとアート、音楽、サイエンスの未来を問い続けている。



「オルタ」シリーズ共同研究：石黒浩、小川浩平、池上高志、土井樹

オルタ3 ソフトウェア設計・開発：升森敦士、丸山典宏、株式会社オルタナディヴ・マシン

オルタ3 シミュレーター開発：株式会社ミクシィ

オルタ3 提供：株式会社ミクシィ

統括プロデューサー：木村弘毅（株式会社ミクシィ）

特別協力：東京大学、大阪大学、株式会社ミクシィ、

株式会社ワーナーミュージック・ジャパン、株式会社オルタナディヴ・マシン

アキラ:藤木大地

Akira : FUJIKI Daichi

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でボローニャに留学後、ウィーンに拠点を置き、ウィーン国立音楽大学大学院で文化経営学を専攻。11年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年5月、ボローニャ歌劇場にてグルック『クレリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパ・デビュー。翌月同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演、国際的に高い評価を得る。17年4月にライマン『メデア』ヘロルド役でウィーン国立歌劇場にデビュー。東洋人のカウンター・テナーとして史上初の快挙で、現地の聴衆から熱狂的に迎えられた。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルで活躍しており、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」主題歌も担当。18年10月にはメジャー・デビュー・アルバム「愛のよこびは」をリリース。バロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活躍している。新国立劇場へは『フィガロの結婚』ドン・クルツィオなどへ出演、本年4月に『ジュリオ・チェーザレ』でカウンター・テナーとしてデビュー予定。20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』オーベロンにも出演を予定している。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

エリカ: 三宅理恵

Erika : MIYAKE Rie

東京音楽大学卒業、同大学院修了。バード音楽院特待奨学生修士課程修了。ドーン・アップショウに師事。10年藤沢オペラコンクール奨励賞受賞。これまでに小澤征爾音楽塾『カルメン』フラスキータ、日生劇場『フィデリオ』マルチェリーネ、NHK音楽祭におけるパーヴォ・ヤルヴィ指揮NHK交響楽団『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、その他『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナなどに出演。オペラの分野以外にも、フォーレ『レクイエム』、シューベルト『ミサ曲第5番 変イ長調』、モーツァルト『レクイエム』、『雀のミサ』、ブラームス『ドイツレクイエム』、カール・ジェンキンス『レクイエム』、アンドリュウ・ロイドウェバー『レクイエム』等宗教曲のソリストとして活躍。新国立劇場では『パルジファル』花の乙女、鑑賞教室『愛の妙薬』ジャンネッタ、『ジークフリート・ハイライトコンサート』森の小鳥に出演している。二期会会員。



ジョージ: 成田博之

George : NARITA Hiroyuki

国立音楽大学声楽科卒業、同大学大学院オペラコース修了。オペラ研修所第10期修了。03年ミトロプーロス国際声楽コンクール（アテネ）最高位など受賞多数。これまでに『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『カルメン』エスカミーリョ、二期会では『ドン・カルロ』ロドリゴ、『リゴレット』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵などに出演。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『沈黙』ヴェリニャーノ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『エウゲニ・オネーギン』ザレツキー、『椿姫』ドゥフォーール男爵、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスなどに出演している。二期会会員。



ルイジ: 小泉詠子

Luisi : KOIZUMI Eiko

東京藝術大学大学院修士課程、博士課程修了、博士号取得。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。平成24年度文化庁派遣在外研修員としてイタリアに留学。オペラでは、サイトウ・キネン・フェスティバル松本及び日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、東京二期会『ファウストの劫罰』マルグリット、同『リゴレット』ジョヴァンナ、同『ノルマ』アダルジーザ、小澤征爾音楽塾特別演奏会『蝶々夫人』スズキなどに出演。モーツァルト『レクイエム』、『第九』などのソリストとしても活躍。新国立劇場では『イエヌーフア』パレナ、『魔笛』侍女Ⅱに出演。二期会会員。



夕鶴

Yuzuru (The Twilight Heron)

オペラパレス | 6回公演 | 全1幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

●前売開始：2020年 6/19(金)

初演：1952年1月30日／大阪朝日会館

作曲：團 伊玖磨

作：木下順二

プロダクションについて

現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に優れた芸術を鑑賞する機会として1998年から開催している「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は今年で23回目を迎えます。

今年度は、日本オペラ史上最高傑作のひとつとして世界的に愛されている團伊玖磨の『夕鶴』を上演します。木下順二の戯曲による美しい日本語と抒情的な音楽、つうの本当の住処である“空”が広がる限りなくシンプルな演出が、民話の世界に託された普遍的なメッセージを伝え、深い感動を呼ぶ作品です。高校生の想像力を刺激し、共感を呼ぶことでしょう。



2016年公演より

あらすじ

【第1場】純朴で働き者の農夫与ひょうは、美しい妻つうと小さな家で仲睦まじく暮らしている。ある日、運ずと惣どが、つうの噂話をしている。つうが織る布は「鶴の千羽織」と呼ばれ、町で十両もの高値で売れたというのだ。本物の鶴の羽で織った布ならば、都で売れば千両になるに違いない、と2人は金もうけの計画を立てる。しかし鶴の羽を一体どこで手に入れるのだろうと不思議に思った2人は、機屋を覗く。するとそこには鶴の羽が落ちているではないか。2人は、つうは鶴の化身なのではないかと疑い始める。与ひょうに問いただすと、彼は鶴を助けたことがあるという。確信した2人は与ひょうに、つうに布を織ってもらい、都で金もうけしようと誘う。布を織るたび痩せていくつうを思い、最初は気のりしなかった与ひょうだが、誘惑に負け、布を織るようつうに命じる。最近金もうけの話ばかりする与ひょうは以前と変わってしまった、とつうは嘆く。これ以上織ったらもう体がもたないかもしれないが、都行きを楽しみにしている与ひょうを思い、つうは布を織る決意をする。そして、いつものように機屋を決して覗かないよう与ひょうに約束させ、織り始める。しかし運ずと惣どは覗いてしまい、中の様子に驚き、与ひょうに報告する。それを聞いた与ひょうは、たまらず機屋を覗く。すると、中には鶴が1羽いるだけで、つうの姿が見当たらない。与ひょうはつうを探しに出る。

【第2場】いくら探してもつうは見つからず、与ひょうは倒れる。そこへつうが布を持ってやってくる。喜ぶ与ひょう。つうは2枚の布を織ったが、織っている最中に姿を見られたからには、空へ帰らなければならない、と涙を流す。布の1枚はいつまでも大切に持っていてほしいと与ひょうに渡し、姿を消す。空高く鶴が飛んでいく――。

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020

團 伊玖磨

夕鶴

DAN Ikuma / Yuzuru

全1幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	三ツ橋敬子
Conductor	MITSUHASHI Keiko
演出	栗山民也
Production	KURIYAMA Tamiya
美術	堀尾幸男
Set Design	HORIO Yukio
衣裳	植田いつ子
Costume Design	UEDA Itsuko
照明	勝柴次朗
Lighting Design	KATSUSHIBA Jiro

	(7月9日、11日、14日)	(7月10日、13日、15日)
つう	石橋栄実	馬原裕子
Tsu	ISHIBASHI Emi	MAHARA Hiroko
与ひょう	鈴木 准	糸賀修平
Yohyo	SUZUKI Jun	ITOGA Shuhei
運ず	萩原 潤	吉川健一
Unzu	HAGIWARA Jun	YOSHIKAWA Kenichi
惣ど	久保和範	峰 茂樹
Sodo	KUBO Kazunori	MINE Shigeki

児童合唱	多摩ファミリーシンガーズ
Children Chorus	Tama Family Singers
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

助 成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協 賛：  ローム株式会社  損保ジャパン日本興亜

2020 年	7 月	9 日(木) 13:00	10 日(金) 13:00
		11 日(土) 13:00	13 日(月) 13:00
		14 日(火) 13:00	15 日(水) 13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生のみ)

※残席がある場合に限り、当日料金：2,200円(高校生以下)／4,400円(一般)

【会 場】 オペラパレス

魔笛

Die Zauberflöte

ロームシアター京都メインホール | 2 回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/日本語字幕付)

初演:1791年9月30日/アウフ・デア・ヴィーデン劇場

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本:エマヌエル・シカネーダー

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」の関西公演は2008年より始まり、今年で13回目を迎えます。2016年より会場をロームシアター京都へ移し、今年の公演は、2018年に続き『魔笛』を上演します。「ジングシュピール」（歌芝居）として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲や、夜の女王の有名なアリアなど、聴きどころが満載です。

ウィリアム・ケントリッジ演出のこのプロダクションは、ケントリッジならではの人間哲学に満ち、ビジュアルアートとしての迫力も相まって、観客に多くの問いを投げかけます。ケントリッジは日本で初の大規模展覧会（京都国立近代美術館）、京都賞受賞など京都の地と縁が深く、2018年の上演でも大きな反響を呼びました。



2018 年公演より

あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥刺しのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。ザラストロの神殿に着いたパパゲーノは、パミーナにタミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかくまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、「ザラストロを殺せ」と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーナと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte

全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮	園田隆一郎
Conductor	SONODA Ryuichiro
演出	ウィリアム・ケントリッジ
Production	William KENTRIDGE
美術	ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
Set Design	William KENTRIDGE, Sabine THEUNISSEN
衣裳	グレタ・ゴアリス
Costume Design	Greta GOIRIS
照明	ジェニファー・ティプトン
Lighting Design	Jennifer TIPTON
ザラストロ	金子 宏
Sarastro	KANEKO Hiroshi
タミーノ	鈴木 准
Tamino	SUZUKI Jun
弁者・僧侶I・武士II	町 英和
Sprecher/Erster Priester/ Zweiter Geharnischter	MACHI Hidekazu
僧侶II・武士I	秋谷直之
Zweiter Priester/Erster Geharnischter	AKITANI Naoyuki
夜の女王	安井陽子
Königin der Nacht	YASUI Yoko
パミーナ	馬原裕子
Pamina	MAHARA Yuko
侍女I	増田のり子
Erste Dame	MASUDA Noriko
侍女II	小泉詠子
Zweite Dame	KOIZUMI Eiko
侍女III	山下牧子
Dritte Dame	YAMASHITA Makiko
パパゲーナ	九嶋香奈枝
Papagena	KUSHIMA Kanae
パパゲーノ	近藤 圭
Pagageno	KONDO Kei
モノスタトス	升島唯博
Monostatos	MASUJIMA Tadahiro
合唱	ほか
Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽	京都市交響楽団
Orchestra	Kyoto Symphony Orchestra

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

主 催: 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成: 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協 賛: **ローム株式会社**

2020 年 10 月 27 日(火)13:00 / 28 日(水)13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生のみ)

※残席がある場合に限り、当日料金:2,200円(高校生以下)/4,400円(一般)

【会 場】 ロームシアター京都 メインホール

竹取物語

Princess KAGUYA

中劇場 | 2回公演 | 全5景／日本語上演／日本語及び英語字幕付

●会員先行販売期間：2020年3/7(土)～3/17(火)

●一般発売日：2020年3/21(土)

初演：2014年1月18日／横浜みなとみらいホール(演奏会形式)・2015年2月／ベトナム国立オペラ劇場(舞台上演)

作曲・台本：沼尻竜典

原作：『竹取物語』(作者不詳)

プロダクションについて

新国立劇場では、2005年から現代舞台芸術に関する地域交流事業として、全国各地のすぐれた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」を行ってきました。2020年は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの『竹取物語』を招聘します。

びわ湖ホールは1998年の開館以来、国内外の優れた舞台芸術を提供するとともに、劇場独自の創造活動の核となる劇場専属声楽家集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を設立して、オペラをはじめとする舞台芸術作品を自主制作しています。

『竹取物語』は、びわ湖ホール芸術監督の沼尻竜典が作曲し、2015年にびわ湖ホールで行った日本初の舞台上演で三菱UFJ信託音楽賞奨励賞を受賞しました。

今回の上演は、2015年の上演と同じく作曲者自身の指揮、栗山昌良演出により、日本最古の物語を様式美を極めた舞台でお贈りします。



びわ湖ホール公演（2015年より）

あらすじ

今は昔、竹取の翁といふもの有りけり。野山にまじりて、竹を取りつつ、よろづの事につかひけり。

むかしむかし、竹を取る翁がいた。あるとき翁は光る竹のなかに小さな女の子を見つけ、媼とともに大切に育てた。女の子は不思議にも三か月で輝くばかりの美しい娘に成長し、「かぐや姫」と名付けられた娘の噂は方々に広がった。そして、殊のほか熱心な五人の男が屋敷に通され妻に迎えたいと申し出る。姫はそれぞれに難題を課し、それを夫婦になる条件としたが、誰一人叶えることはできなかった。遂には帝までもが心惹かれ、妃にすべくかぐや姫に近づくが、その要求も受け入れられない。帝はせめてもとして歌のやり取りを望み、姫はこれを約束する。

帝と心を通わせて三年が経とうとした頃、かぐや姫は月を見ては悲しげな顔をするようになった。かぐや姫は、自分が月の都の者であり、次の十五夜に月から迎えがくことを打ち明ける。翁は、帝の軍勢にこれを阻止するよう懇願するが、月の使者の前になす術もなく、帝への手紙と不死の薬を残してかぐや姫は月へ帰ってしまう。残された帝は、不死の薬を返すべく多くの兵を引き連れて、この世で一番高い山で薬を焼き、それからこの山は富士の山と呼ばれる。

新国立劇場 地域招聘オペラ公演 びわ湖ホール

沼尻竜典

竹取物語

NUMAJIRI Ryusuke / Princess KAGUYA

全5景〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮	沼尻竜典
Conductor	NUMAJIRI Ryusuke
演出	栗山昌良
Production	KURIYAMA Masayoshi
美術	鈴木俊朗
Set Design	SUZUKI Toshiaki
照明	原中治美
Lighting Design	HARANAKA Harumi
衣裳	岸井克己
Costume Design	KISHII Katsumi
振付	小井戸秀宅
Choreographer	KOIDO Hideie

びわ湖ホール声楽アンサンブル

かぐや姫	幸田浩子(11日)★／森 麻季(12日)★
Princess KAGUYA	KOUDA Hiroko / MORI Maki
翁	的場正剛 *
Old man	MATOKA Masataka
媼	森 季子 *
Old woman	MORI Tokiko
帝	迎 肇聡 *
Mikado	MUKAI Tadatoshi
石作皇子・大将	清水徹太郎 *
Prince Ishitsukuri / General	SHIMIZU Tetsutaro
庫持皇子	五島真澄 *
Prince Kuramochi	GOTO Masumi
阿倍御主人	市川敏雅
Abe-no-miushi	ICHIKAWA Toshimasa
大伴御行	晴 雅彦★
Ohtomo-no-miyuki	HARE Masahiko
石上麻呂足	平 欣史
Isonokami-no-marotari	TAIRA Yoshifumi
月よりの使者	船越亜弥
Envoy from the moon	FUNAKOSHI Aya
★…客演 ＊…びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー	
合唱	びわ湖ホール声楽アンサンブル
Chorus	栗友会合唱団 BIWAKO HALL Vocal Ensemble Ritsuyukai Choir
管弦楽	トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア
Orchestra	Tokyo Mitaka Philharmonia

2020 年 7 月 11 日(土)16:00 / 12 日(日)14:00

【チケット料金】 S:13,200円 ・ A:11,000円 ・ B:8,800円 ・ C:7,700円

【会場】 中劇場

Opera

公演一覧

開場記念公演～2019/2020 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナパッコ	フランコ・ゼツフィレッリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18
1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	1999. 9/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェスラフ・シュティ	栗山昌良	1999. 12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	アントニオ・ピロツリ	栗園淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファールディング	2000. 4/11
	ドン・キホーテ*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
	リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー/ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロツリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	2001. 7/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファールディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティアー	2002. 6/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァリーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッタ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッツィ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファアーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トウツテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レプシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッツィ	2005. 5/28
2005/ 2006	蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24
	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジヨルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トウツテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レプシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命のカ*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトウーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトウーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルバチャーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルバチャーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	2008. 2/03
	黒船 ―夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレツリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05
2008/ 2009	トウーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ボネル	2009. 6/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チューザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルバチャーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアン・ノ・ミキエレット	2011. 5/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファース	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	栗國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケーニッ	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
	ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンターネロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒャエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒャエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアノ・ミキエレット	2013. 6/03
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コルンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ /道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
	鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19
2014/ 2015	バルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クブファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレツィ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
	沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルバルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒャエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーフ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファース	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	ヤデル・ビニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
	夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァペーニ	栗國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鵜山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ピザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01
2017/ 2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサール	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシヤ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバスティアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01
2018/ 2019	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベーア	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鵜山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー /G.プッチーニ	沼尻竜典	栗國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18
2019/ 2020	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019. 10/01
	ドン・パスクワーレ*	G.ドニゼッティ	コッラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツィオーリ	2019. 11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レプシッチ	ヴァンサン・ブサール	2019. 11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	栗國 淳	2020. 1/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020. 2/06
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアノ・ミキエレット	2020. 3/18
	ジュリオ・チェーザレ*	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ベリー	2020. 4/07
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	2020. 4/19
	サロメ	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファアーディング	2020. 5/17
	ニュルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	2020. 6/21

★＝新制作

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村 禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラ・ネッサンス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	栗國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー ／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッゼリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァーニ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	栗國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ベレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・アルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシヤ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チャーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チャーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チャーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29
令和 元 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019. 7/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019. 10/28

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ！	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22